

令和4年度

(2022)

林 窓

【後半】

東京都立三田高等学校

理科

【理科】 3年間の教科学習の構成（物理・化学）

分野	物理	化学
3年	講座名：物理基礎演習（自選1） 講座名：物理（理必4） 講座名：物理（自選4） 講座名：物理演習（自選2）	講座名：化学基礎演習（自選1） 講座名：化学（理必4） 講座名：化学（自選4）
	「物理基礎演習」 ・共通テスト物理基礎の模擬演習と解説を行う。 「物理」「物理演習」 ・慣性力、円運動、万有引力、単振動などの力学。電界と電位、コンデンサー、磁界、電磁誘導、交流などの電磁気学。及び熱力学、原子物理について、問題演習を常に取り入れ、授業中に問題に当たっていくことによって、物理学の法則現象を深く理解できるよう学習する。	「化学基礎演習」 ・演習では共通テストの模擬演習と解説を行う。 「化学」 ・反応速度、化学平衡の仕組みを理解し、速度定数や平衡定数を用いた量計算ができる。 ・高分子の構造、性質、製法を理解する。 ・無機物質の性質や代表的な製法・利用法を理解し、身近な物質を化学的な視野で捉えられる。 ・入試に向けた総合的な問題が解ける。
2年	講座名：物理基礎（必選3）	講座名：化学（必選3）
	・運動の3法則について観察や実験を通して理解する。 ・運動方程式の立て方について学習し、斜面上の運動、連結した物体の運動など、さまざまな運動状態における運動方程式の立て方を理解する。 ・力学的エネルギーの保存について理解する。 ・正弦波と波、振幅、波長、周期、振動数、媒質の振動など、波の要素について学習する。 ・重ねあわせの原理、波の独立性、定常波、波の反射、固定端反射、自由端反射について学習する。 ・摩擦電気を通して電気の原因となる電荷を学習し、静電気力、電流や電圧、オームの法則などについて理解する。	・物質の状態やボイルシャルルの法則、状態方程式、分圧を理解し、計算ができる。 ・溶液の性質について学び、溶解度、浸透圧、凝固点降下、沸点上昇などの計算ができる。 ・反応熱の仕組みを理解し熱化学方程式が利用できる。 ・電池・電気分解の仕組みを理解し量計算ができる。 ・有機物の構造、性質を理解し、分子構造を決定できる。
1年		講座名：化学基礎（必修2）
		・化学の基礎事項と、実験や観察を通じた探究する能力や態度を身につける。 ・原子、分子、イオンなどの基本粒子の構造と、化学結合の仕組みから、物質の性質や特徴を説明できるようになる。 ・モル概念・濃度計算を身につけ、化学の反応量を計算できるようになる。 ・中和反応や酸化還元反応などを、反応に共通の原理から捉えられるようになる。

【理科】 3年間の教科学習の構成（生物・地学）

分野	生物	地学
3年	講座名：生物基礎演習（自選1） 講座名：生物（理必4） 講座名：生物（自選4） 講座名：生物演習（自選2）	講座名：地学基礎演習（自選1） 講座名：地学（自選4）
	「生物基礎演習」 ・共通テスト、医療・看護系大学の過去問題を中心に問題演習を行う。 「生物」 ・生命現象と物質、遺伝子、生殖と発生、環境応答、生態系、進化系統の各分野について、生命現象の概念や原理、法則について理解する。 ・様々な実験データをもとに、学習した知識、概念を用いて生命現象について考察することができる。 ・入試に向けた総合的な問題が解ける。 「生物演習」 ・生物の分野について大学入試の過去問題を中心に問題演習を行う。	「地学基礎演習」 ・共通テストに向けて、過去問を中心に、問題演習と解説を行う。 「地学」 ・地学は、2年で学んだ地学基礎をベースに、地球物理学、地質学、気象学、天文学に関する概念や法則性について理解する。ただし、例年希望者が少なく開講できないことが多い。
2年		講座名：地学基礎（必選3）
		・地震・火山・地層・地球の歴史・大気と海洋・天文などの身近な自然現象について、その基本的な概念や原理・法則を理解する。
1年	講座名：生物基礎（必修2）	
	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理、法則を理解する。 ・細胞、代謝、遺伝子、恒常性、生態系など生物学を階層ごとに学び、生物の共通性と多様性について理解する。 ・実験や観察を通して生物学的に探究する能力や態度をもつ。集団の中で協力して課題を解決することができる。 ・光学顕微鏡、マイクロメーター、スケッチ等の生物実験における基本的な器具の使用方法や実験技能を習得し、記録に残すことができる。	

理科学習指導計画

教科の学習目標

自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。

講座名	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
化学基礎	1	共通	2	改訂新編化学基礎（東京書籍）	サイエンスビュー化学総合資料（実教出版） ニューグローバル化学基礎（東京書籍）
生物基礎	1	共通	2	生物基礎（数研出版）	セミナー生物基礎（第一学習社） スクエア最新図説生物 neo（第一学習社）
物理基礎	2	必選	3	考える物理基礎（啓林館）	セミナー物理基礎・物理（第一学習社）
地学基礎	2	必選	3	地学基礎 改訂版（啓林館）	センサー地学基礎 改訂版（啓林館） ニューステージ新地学図表（浜島書店）
化学	2	必選	3	化学 新訂版（実教出版）	サイエンスビュー化学総合資料（実教出版） ニューグローバル化学（東京書籍）
物理	3	必選	4	総合物理 1、2（啓林館）	セミナー物理基礎・物理（第一学習社）
化学	3	必選 自選	4	化学 新訂版（実教出版）	サイエンスビュー化学総合資料（実教出版） ニューグローバル化学（東京書籍） チェック&演習 化学（数研出版） 化学重要問題集（数研出版）
生物	3	必選 自選	4	生物（数研出版）	スクエア最新図説生物 neo（第一学習社） リードα 生物基礎＋生物（数研出版） チェック&演習 生物（数研出版）
地学	3	自選	4	地学（啓林館）	ニューステージ新地学図表（浜島書店）
物理演習	3	自選	2	総合物理 1、2（啓林館）	
生物演習	3	自選	2	生物（数研出版）	リードα 生物基礎＋生物（数研出版）
物理基礎演習	3	自選	1	考える物理基礎（啓林館）	
化学基礎演習	3	自選	1	改訂新編化学基礎（東京書籍）	サイエンスビュー化学総合資料（実教出版） ニューグローバル化学基礎（東京書籍） ビーライン 化学基礎（第一学習社）
生物基礎演習	3	自選	1	生物基礎（数研出版）	スクエア最新図説生物 neo（第一学習社） チェック&演習 生物基礎（数研出版）
地学基礎演習	3	自選	1	地学基礎 改訂版（啓林館）	チェック&演習 地学基礎（数研出版）



理科を学ぶにあたって

○本校の理科の開講講座について

本校では中学校理科の学習の成果を踏まえて、自然科学の複数の領域を学び、基礎的な科学的素養を幅広く養い、科学に対する関心を持ち続ける態度を育てることを目的にしている。したがって、まず生徒一人一人の能力・適正、興味・関心に応じて、まず基本的な概念や探究方法を学習する科目として、「基礎科目」を設定している。次に将来の進路選択に応じて、自然を探究する能力や態度を一層高めることができるように、より高度な概念や探究方法を学習する専門科目として、「物理」・「化学」・「生物」・「地学」を選択することができるようになってきている。さらに三年次では、大学入試に対応できるように、「演習」も選択することができる。

第一学年	第二学年	第三学年	
化学基礎 (週 2 時間) 必履修 生物基礎 (週 3 時間) 必履修	物理基礎・地学基礎 (週 3 時間) 上記のうち 1 科目を必修選択 化学・世界史 (週 3 時間) 上記のうち 1 科目を必修選択	理系	物理・化学・生物・地学 (週 4 時間) 必修選択・自由選択 物理演習・生物演習 (週 2 時間) 自由選択
			物理基礎演習・化学基礎演習 生物基礎演習・地学基礎演習 (週 1 時間× 2 講座) 自由選択
		文系	

○「文武両道」とは、勉強もクラブ（スポーツ）も両方やる人のこと？

「文武両道」とは本来「『文』を極めるには『武』によって培われた健全な心と体が必要であり、『武』を極めるには『文』によって培われた論理的思考が欠かせない」という意味である。実際には勉強とスポーツの両方に秀でている人など非常に少ないのだから、「文武両道」は実践するというよりも、目指すものであると言える。ところで高校二年生位になると進路を考える際に、「将来文系の大学に進むので、理系の科目は必要ない」と言っている生徒を見かけるが、それは違う。例えば、文系に分類される経済学部では数学の知識が必須だし、理系の学部でも研究成果を表すのに国語や英語の能力は欠かせない。つまり学問は一見全く異なる分野に見えても深い関連性がある。これを「文武両道」になぞらえて、「文理両道」と呼んでもよいのではないだろうか。この世の中で学ぶに当たって無駄なもの・必要のないものなど何一つない。目先のことに囚われず広い視野で物事を考え、そして頭が柔軟な若いうちから色々な知識を蓄えることが、豊かな人生を送るためには不可欠である。

科学の語源と近代科学の発展

科学 (science) の語源は、ラテン語の "scientia" (知る) です。つまり科学とは、人間だけが根源的に持っている知的活動のことです。この理科の基礎ともなる科学的な考え方が誕生したのは、15 世紀頃のヨーロッパにおいて「ルネサンス」という文化活動が広まったからだと言われています。人々は、それまで神を中心として正しいとされてきたことに対して、科学的な視点から客観的に何が正しくて何が正しくないのかを考えるようになったのです。

ところで有名な「知は力なり」(※ラテン語では "scientia potentia est"、英語では "knowledge is power") は、16 世紀イギリスの哲学者フランシス・ベーコンの言葉です。「自然法則を知り、経験を積んで、それを使って自然と調和すれば、人間の世界は豊かになる」という考えです。この多くの観察事実や実験から自然法則を見出すベーコンの「帰納法」と、前提となる仮説を立てて検証していくデカルトの「演繹法」の両方を組み合わせた形で、近代科学は発展していったのです。

物理基礎

学習目標

身のまわりの自然の中に潜む普遍的な法則や原理を探求し、また、さまざまな科学技術の基礎を担っている物理学の基礎的な事実、概念、法則を学ぶ。

2 学年物理基礎年間授業計画

科目	物理基礎		履修	必選		学年	2	単位	3 単位
講座名	物理基礎		担当	未定					
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 力と運動（直線上）、力学的エネルギー、熱、波の性質、音と振動、電気、エネルギーとその利用、等に関して、物理学の基礎的な事実、概念、法則を学ぶ。 								
月	学習の単元		学習の内容						
一 学 期	4	I 力と運動 力のつりあい	<ul style="list-style-type: none"> 物とその重さ 力、力のつりあい、作用反作用、力の合成・分解 重力、弾性力、浮力、摩擦力 速さと速度、加速度、$v-t$ グラフ 重力加速度、落下運動、放物運動 ニュートンの運動の法則 						
	5								
	6	物体の運動							
	7	運動の法則							
時間			36						
二 学 期	9	II エネルギー 仕事と力学的エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 仕事、仕事の原理 力学的エネルギー保存則 比熱、熱容量 熱力学第一法則 正弦波、横波と縦波、ホイヘンスの原理、 波の重ね合わせ、反射屈折回折、 						
	10								
	11	III 波動 波の性質							
	12								
時間			42						
三 学 期	1	音波	<ul style="list-style-type: none"> 弦の振動、共振、気柱の振動、共鳴 静電気のいろいろ 回路、電流、電位、抵抗 オームの法則 						
	2	IV 電気 静電気							
	3	電流回路							
時間			27						
評価の方法	<p>関心・意欲・態度：日常生活や社会との関連づけながら化学に関心をもっているか、見通しをもって観察、実験を行っているかなどを、授業、実験への取り組みを通じて総合的に評価する。</p> <p>知識・理解：物質とその変化について、概念や法則を理解しているかを、小テスト・定期考査で評価する。</p> <p>観察・実験の技能：物質とその変化に関する観察、実験などを行い、実験への取り組みで評価する。</p> <p>思考・判断・表現：実験のレポート、授業の提出物の記述内容を総合的に評価する。</p>								
講習	必要に応じて講習を行う。成績不良者には課題を提出させることもある。								

物理

学習目標

身のまわりの自然の中に潜む普遍的な法則や原理を探求し、また、さまざまな科学技術の基礎を担っている物理学の基礎的な事実、概念、法則を学ぶ。

3 学年物理年間授業計画

科目	物理	履修	理必	学年	3	単位	4 単位
講座名	物理	担当	未定				
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 力と運動（平面上）、運動量、円運動と単振動、万有引力、気体分子の運動、波の伝わり方、音波の干渉 回折、ドップラー効果、光波、電気と磁気、原子、等に関して、物理学の基礎的な事実、概念、法則を学ぶ。 						
月	学習の単元	学習の内容					
一学期	4	運動量 円運動 慣性系と非慣性系 単振動 万有引力 熱、気体	<ul style="list-style-type: none"> 運動量と力積、運動量保存の法則 等速円運動 慣性力 単振動 万有引力 状態変化と分子運動、分子運動と圧力、状態方程式 熱力学第一法則 				
	5						
	6						
時間							
二学期	7	波動 電場と電位 電流 電流と磁場	<ul style="list-style-type: none"> 光波 電場と電位、コンデンサー 直流回路 電流による磁場 				
	8						
	9						
時間							
三学期	10	電流が磁場から受ける力 電磁誘導と交流 粒子性・波動性 原子・原子核 補足演習	<ul style="list-style-type: none"> 電流が磁場から受ける力、ローレンツ力 電磁誘導、交流 光電効果、コンプトン効果、X線 電子波 ボーアの水素原子模型 原子核の崩壊 核反応 				
	11						
	12						
時間							
三学期	1	(特別授業)					
	2						
	3						
時間							
評価の方法	関心・意欲・態度：日常生活や社会との関連づけながら化学に関心をもっているか、見通しをもって観察、実験を行っているかなどを、授業、実験への取り組みを通じて総合的に評価する。 知識・理解：物質とその変化について、概念や法則を理解しているかを、小テスト・定期考査で評価する。 観察・実験の技能：物質とその変化に関する観察、実験などを行い、実験への取り組みで評価する。						

	思考・判断・表現：実験のレポート，授業の提出物の記述内容を総合的に評価する。
講習	必要に応じて講習を行う。成績不良者には課題を提出させることもある。

物理基礎・物理の学び方

○物理とは

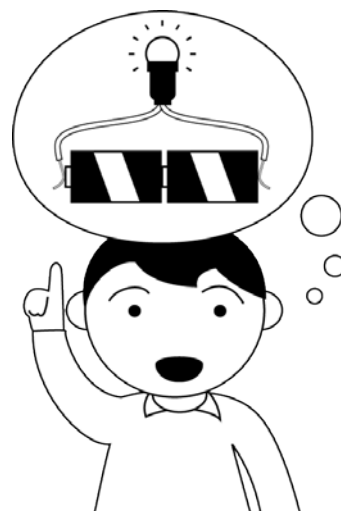
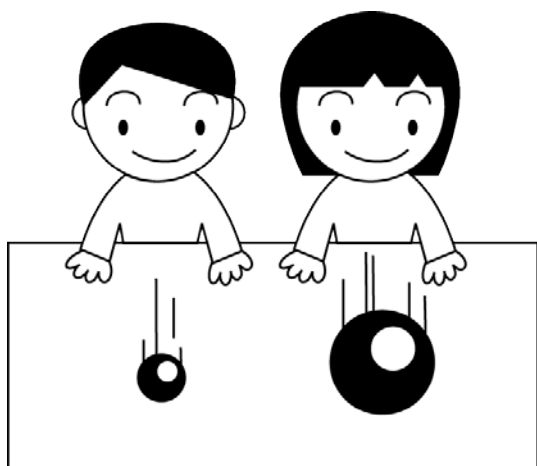
身のまわりの自然の中に潜む普遍の法則や原理を探求するのが物理学です。また、物理学はさまざまな科学技術の基礎を担っています。高等学校の物理基礎や物理ではそうした物理学の基礎的な事実、概念、法則を学びます。

○学習する上で留意すること

物理基礎・物理では、どのような現象を扱っているのか、どのような法則が成立しているのかを把握することが暗記や数学的処理の前に大切です。そのうえで、必要な暗記をし、数学的表現や処理を学ぶこととなります。数学は高校範囲のうち必要なものは物理基礎・物理の授業でもどんどん用いますので、高校1年生のうちからよく学習しておいて下さい。

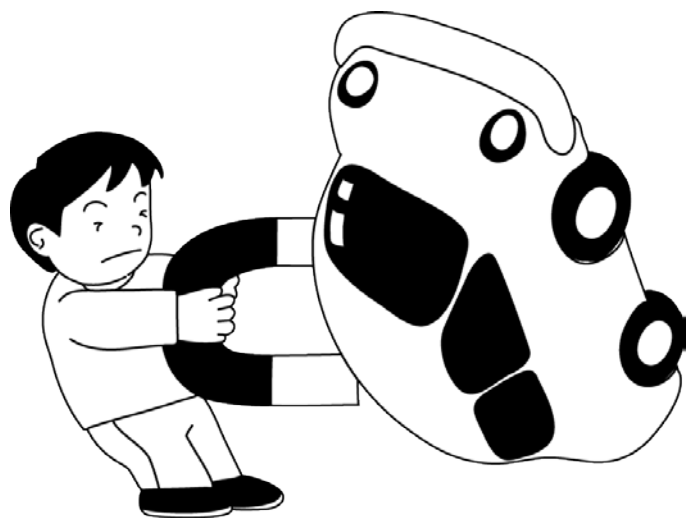
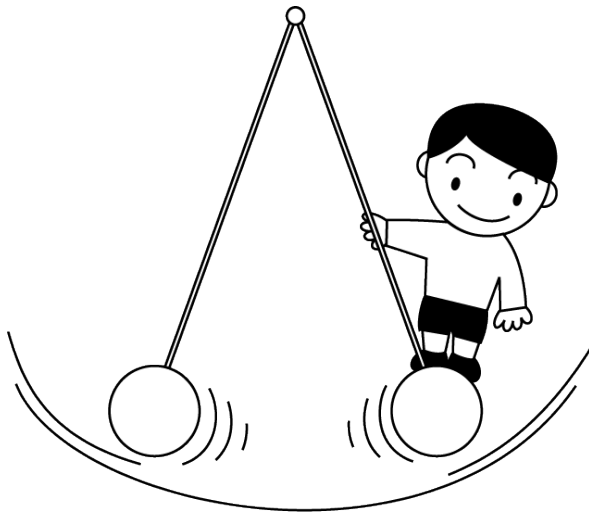
物理基礎・物理を学習する上で注意することは、具体的には

- ① まず自分の頭を使うこと。人にたよらない。
- ② の結果間違えることがあってもよい。間違いなしに発展はない。
- ③ 他の人の意見もよく聞く。そして再び考える。
- ④ 自然の根本原理をさぐる楽しさを知ろうとすること。
- ⑤ 授業のあったその日のうちに復習すること。
- ⑥ 問題演習を宿題のあるなしに関わらず、持続的に行うこと。
- ⑦ 教員や友人等にまめに質問をすること。



○参考図書

- ・板倉聖宣『ぼくらはガリレオ』岩波現代文庫
 - ・朝永振一郎『物理学とは何だろうか』（上・下）岩波新書
- 学習参考書・問題集
- ・物理のエッセンス（力学・波動）、（熱・電磁気・原子）河合出版
 - ・橋元流解法の大原則（力学・波動）、（電磁気・熱・原子）Gakken
 - ・新・物理入門 駿台文庫
 - ・物理「力学・波動」44の盲点チェックで合格を決める 文英堂
 - ・物理「電気・熱・原子」48の盲点チェックで合格を決める 文英堂
 - ・わかっていそうでわかっていない物理の質問 91（物理基礎・物理） 旺文社
 - ・らくらくマスター物理基礎・物理 河合出版
 - ・物理重要問題集 数研出版
 - ・名問の森 1, 2 河合出版



化学基礎

学習目標

実験、観察を通じて化学的な知識、理論を学び、探求する態度と能力を養う。

自然や日常生活の様々な事象・現象を化学的な視野で捕らえることができる。

物質の化学式、化学反応式を書きかた、モル計算などの化学の基本を習得する。

1 学年化学基礎年間授業計画

科目	化学基礎		履修	必修		学年	1	単位	2単位
講座名	化学基礎		担当	未定					
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<ul style="list-style-type: none"> 元素記号，化学式，物質名を覚え，正確に記す。 化学の原理や法則を理解する。 化学実験において，安全に，他者と協力して取り組む。 化学実験で，実験器具を適切に選択し，正しく操作する。 		<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化について，共通点や相違点を見つけ，原理や法則について考える。 原子・分子の視点で，結合や化学反応を説明する。 化学反応の量的な関係を物質量を用いて計算する。 		<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連づけながら化学に関心をもっている。 見通しをもって観察，実験を行おうとしている。 学習内容について自ら化学的に思考したり，考察する。 				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 元素記号，化学式，物質名を正しく書ける。 学習内容の原理や法則を正しく理解している。 安全に留意し，正しい操作で実験を行うことができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 化学的な事象から共通点や相違点を見つけ，原理や法則を説明できる。 結合や化学反応を原子・分子の視点で説明できる。 物質量を用いて，化学反応を考えることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 実験内容や結果を日常生活や既習内容と関連づけることができる。 実験を見通しをもって取り組んでいる。 				
評価方法	小テスト，定期考査，行動観察，パフォーマンステスト <ul style="list-style-type: none"> 小テストを実施し，その結果に基づいて評価する。 パフォーマンステストを行い，その結果に基づいて評価する。 		実験レポート，定期考査 <ul style="list-style-type: none"> 実験レポートの記述内容に基づいて評価する。 定期考査を実施し，その結果に基づいて評価する。 		行動観察，実験レポート <ul style="list-style-type: none"> 実験中の操作，結果，他者との協力を行動観察し，評価する。 講義，実験の内容を思考，考察しているかを，実験レポートの記述内容を基に評価する。 				
月	学習の単元		学習の内容						
一学期	4	1章 物質の探求	<ul style="list-style-type: none"> 物質の分離と精製 物質の成分 原子の構造 電子配置と周期表 						
	5	物質の構成粒子							
時間	6	物質と化学結合	<ul style="list-style-type: none"> イオンとイオン結合 金属と金属結合 分子と共有結合 						
	24								
二学期	9	物質量と化学変化	<ul style="list-style-type: none"> 原子量・分子量と物質量 モル濃度 化学変化の量的関係 酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩の生成 中和反応の量的関係と中和滴定 						
	10								
時間	11	酸と塩基							
	28								
三学期	1	酸化と還元	<ul style="list-style-type: none"> 酸化と還元 酸化剤還元剤 イオン化傾向 酸化還元反応の利用 						
	2								
時間	3								
	18								
講習	成績不良者については指名して講習を受講させることもある。								

化学基礎の学び方

○化学とは

化学は、洗剤やプラスチック、化粧品、薬、衣類、電池など様々な物質や装置を生み出した。理数系の中でも暮らしに一番縁の深い科目である。

そもそも物質とは何か。似ている物質があるのはなぜか。逆に性質が異なるのはなぜか。そこにはどのような理屈があるのだろうか。

化学では物質の性質を「原子や分子などのミクロの粒子の振る舞い」として考える。単純にも感じられる原子の構造から、物質の様々な性質を説明できることに驚くだろう。

まずは実験を楽しみ、物質の性質に興味を持って欲しい。そしてこれらの反応や性質が「粒子の振る舞い」の理論と合致する面白さを感じて欲しい。

○化学基礎の留意点

「化学基礎」では化学の中でも、今後の化学を学ぶために必要な基礎を学習する。では基礎とは何か。よく「読み書き、そろばん」というけれど、化学の基礎もまずは「読み書き、そろばん」なのだ。

1) 予習より復習

理科は考える教科だから、暗記はしないで良いと誤解する人がいる。もちろん考えることは大切だが、思ったより覚えることが多いのだ。習った日のすぐの復習が効果的。というより必要である。

化学は英語や数学のように積み重ねが大切だ。

2) 記号や化学式の「読み書き」は大切

特に元素記号、化学式、周期表、反応式は習ったすぐに必ず覚える。書けるようにする。

英語では、アルファベットが書けないと、単語が表せない。単語が書けなければ文章は書けない。

同様に化学でも、元素記号が書けないと、分子を表せない。分子が書けなければ反応式が書けない。

さらに反応式が書けないと量計算ができない…雪だるま式に分からなくなる。

3) モル計算は「習うより慣れろ」

化学にはモル計算という化学特有の計算の仕方がある。

反応量を計算するのに大変便利なのだが、慣れるまでは練習が必要。

特にモル計算は習ったその日にすぐ練習しよう。問題集は必ず解き、小テストは完璧にして受けよう。

4) しっかり聞こう。よく見よう。よく考えよう。

説明は集中して聞こう。実験など危険を伴うこともある。説明は考えながら聞こう。時間内に覚えてしまう意気込みで聞こう。観察では様々な変化をメモするようにしよう。変化の理由をよく考えよう。

5) 教科書・資料集を活用しよう。

図表や写真は印象に残りやすい。授業の内容に合わせて、聞きながら読むことを心がけよう。

資料集の引きついでに他の項目を見たりすると、さらに知識や興味が広がるだろう。

「誰でも忘れる」…その日のうちの復習を…

右の表を見てください。学習したことは、ふつう1日も放置するとほぼ忘れてしまいます。忘れてからの復習では、また何倍もの努力が必要になりますね。

ですから、できるだけ早いうちに「思い出す」こと。

せめて当日中に「確認だけはする」こと。

これだけで定着率はずっとよくなります。忘れる前に復習しておく…ずいぶん楽になるはずですよ。

エビングハウス氏の実験

による、忘却する割合

20分後…………… 42%

1時間後…………… 56%

9時間後…………… 64%

1日後…………… 74%

1週間後(7日間後)… 77%

1ヶ月後(30日間後)… 79%

化学（2学年）

学習目標

化学基礎を土台とし、実験、観察を通じて化学的な知識、理論を学び、探求する態度と能力を発展させる。
自然や日常生活の様々な事物・現象に対する化学的な視野を発展させる。化学反応の量計算をさらに習熟する。

2学年化学年間授業計画

科目	化学		履修	必修		学年	2	単位	3単位
講座名	化学		担当	未定					
学習の目標	① 電池・電気分解の仕組みを理解し電気的な量計算ができる。 ② 状態変化や気体・固体の性質を理解し、ボイルシャルルの法則や状態方程式、分圧の計算問題が解ける。 ③ 溶液の性質を理解し、溶解度、浸透圧、凝固点降下、沸点上昇などを計算できる。 ④ 物質の状態変化や化学変化をエネルギーとの関係で捉え、反応熱の仕組みを理解する。熱化学方程式が利用できる。 ⑤ 有機物の構造、性質、利用の仕方を理解し、分子構造を決定できる。 ⑥ 観察実験や定量実験の技術を深め、自らに疑問や課題を課して実験できる。								
月	学習の単元		学習の内容						
一学期	4	状態変化	<ul style="list-style-type: none"> ・状態変化に伴うエネルギー ・物質の融点・沸点 ・蒸気圧 						
	5	気体の性質 固体の構造 溶液	<ul style="list-style-type: none"> ・ボイルの法則・シャルルの法則 ・理想気体の状態方程式 ・混合気体 						
	6	化学反応と電気エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・金属結晶 イオン結晶 分子結晶 共有結合の結晶 ・溶解と固体の溶解度 ・気体の溶解度 						
時間	7		<ul style="list-style-type: none"> ・溶液の性質（凝固点降下・浸透圧等） ・コロイド溶液の性質 						
36									
二学期	9	化学反応とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・ダニエル電池・実用電池 ・電気分解・電解生成物 ・電気分解と量的な関係 ・化学反応と熱エネルギー ・ヘスの法則 ・化学反応と光エネルギー 						
	10								
	11	有機化合物	<ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の特徴と分類 ・脂肪族炭化水素 						
時間	12								
42									
三学期	1	有機化合物	<ul style="list-style-type: none"> ・酸素を含む脂肪族化合物 ・構造式の決定 ・芳香族化合物 						
	2								
	3								
時間	3								
27									
評価の方法	<p>関心・意欲・態度：日常生活や社会との関連づけながら化学に関心をもっているか、見通しをもって観察、実験を行っているかなどを、授業、実験への取り組みを通じて総合的に評価する。</p> <p>知識・理解：物質とその変化について、概念や法則を理解しているかを、小テスト・定期考査で評価する。</p> <p>観察・実験の技能：物質とその変化に関する観察実験などを行い実験への取り組みで評価する。</p> <p>思考・判断・表現：実験のレポート、授業の提出物の記述内容を総合的に評価する。</p>								
講習	休業中には、授業中に触れられなかった応用問題の演習の講座を開講する。								

化学の学び方

○「化学」の内容

「化学」では、「化学基礎」を土台として発展的な内容を学習する。化学は範囲が広いので2年生と3年生に分けて学習する。

1)1・2学期前半は「理論」

電池・電気分解・物質の状態変化・気体や溶液の性質・エネルギー変化と熱の出入りなどについて、物質変化の理論を学ぶ。理論分野ではファラデーの法則・ボイルシャルルの法則・状態方程式・分圧の法則・溶解度・浸透圧・凝固点降下・沸点上昇・熱化学方程式など、法則や数学的な量計算が中心となる。実験も定量的になってくる。難しくなるので、1年次に学習する「化学基礎の反応式と量的な計算」(モル計算)を習熟しておくことが大切だ。

2)2学期後半は「各論」 有機化合物

有機化合物は炭素を骨格とした化合物のことである。有機化合物の、骨格・官能基(炭素骨格と結合する特有の性質をもつ原子団のこと)・反応などについて学ぶ。

分子の構造や名称をきちんと覚えながら、連続する有機化合物の変化を、反応系統図にして書けるようにしたい。また有機化合物の構造決定にはとくに演習を積んで欲しい。

○化学の留意点

「化学」の留意点も基本的に「化学基礎」と同じである。良く見、良く聞き、良く考え、問題演習で定着させよう。覚えることは覚えよう。

その上で、「化学基礎」を学び終わっている君たちにはもう一段深い学習を勧める。

深い学習とは「疑問を持ち、自分で調べ、考え、試す」ことに尽きる。実験を例に考えてみよう。

1)実験の予想を立てよう。

まずは教科書通りに学んだ知識を活かして実験に臨もう。実験の狙いを考え、起こるべき反応を予想しよう。果たして結果は教科書通りなのか。

2)結果を記録しよう

実験はなかなか教科書通りに行かないものだ。温度・濃度や量が少し違っても、順序を一つ違えても結果が変わることがある。完全に教科書通り行っても、期待通りの結果にならないことさえ多い。

期待された結果と異なっても、自分の結果を受け止め、起こったことを記録しよう。実験で起こったことはその都度できるだけ細かく記録しよう。大学で卒論を書くときも、実験ノートが命と心得よ。

3)理由を考えよう

結果が異なった原因を教科書、資料集、参考書、インターネットなどで調べたり、条件を変えてやり直したり、もっと良いやり方を考えたり・・・試行錯誤をすることが本当の実験である。調べること、考えること、試すことが君たちを真に成長させる。

「物理・化学・生物・地学は4つ揃って理科の教養」……広く浅くもアリです。

2学期は3年次の選択科目に悩む季節。

「生物(物理)に進むのだけど、化学は受験教科ではないので選択しないで良いでしょうか。」と質問を受けます。「受験教科以外の勉強をしている余裕はない。」という理由。深刻です。

「全力を注がなくてもいいから、聞くだけ聞いておいたら。」と答えています。

生物は全て有機物で出来ているので、有機化学を知らないと大学で困るからです。近年遺伝子や、IPS細胞など、生物と化学にまたがる生化学という領域に人気がありますが、内容はまさに化学です。

科目分けされるのは受験だけです。

大学や社会ではトータルな理科の素養が必要です。広く浅くてもゼロよりはまし。化学は、生物学・農学、栄養学・建築・工学・医学・看護・地学、教育(理科)・・・にも必要な素養です。同様に化学志望者は、物理の素養がないと苦労します(大学の化学はまるで物理)。理科はつながっている！

化学（3学年）

学習目標

実験、観察を通じて化学的な知識、理論を学び、探求する態度と能力を高校生として完成させる。
 自然や日常生活の様々な事物・現象に対する化学的な視野を高校生として完成させる。
 受験応用問題に対処できる学力を得る。

3学年化学年間授業計画

科目	化学	履修	必選・自選	学年	3	単位	4単位
講座名	化学	担当	未定				
学習の目標	① 反応の速さ及び化学平衡の仕組みを理解し、速度定数・平衡定数を用いた量計算ができる。 ② 天然高分子・合成高分子などの構造や性質、製法を理解し身近な物質を化学的な視野で捉える。 ③ 無機物質の性質や代表的な製法・利用法を理解し、身近な物質を化学的な視野で捉えられる。 ④ 入試に向けた総合的な問題が解ける。 ⑤ 実験や観察において自ら課題を設定し検証・考察ができる。						
月	学習の単元		学習の内容				
一学期	4	反応の速さと仕組み	・反応の速さ ・反応速度を変える条件 ・反応の仕組み				
	5	化学平衡	・可逆反応と化学平衡 ・化学平衡の移動 ・化学平衡と化学工業 ・電解質水溶液の平衡				
	6	高分子化合物	・高分子化合物 ・天然高分子化合物 ・合成高分子化合物				
時間	7						
48							
二学期	9	無機物質 非金属元素	・非金属元素 ・典型金属元素 ・遷移元素 ・金属イオンの分離と確認 ・無機物質と人間生活 ・入試総合演習				
	10	金属元素					
	11	入試演習					
時間	12						
56							
三学期	1	入試演習	・入試演習				
	2						
	3						
時間							
評価の方法	関心・意欲・態度 : 授業, 実験への取り組みを通じて総合的に評価する。 知識・理解 : 小テスト・定期考査で評価する。 観察・実験の技能 : 実験への取り組みで評価する。 思考・判断・表現 : 実験のレポート, 授業の提出物で総合的に評価する。						
講習	休業中には、受験演習の講座を開講する。						

化学の学び方

○「化学」の内容

3年次の「化学」では、2年次に残した反応の速さとしくみ、化学平衡、高分子、無機化合物を学習する。化学を理解するのに重要な分野であり、受験頻出でもある。確実にこなしていきたい。

1) 1学期前半は「理論」 反応の速さとしくみ 化学平衡

化学平衡の分野では反応速度や、化学平衡、平衡定数などを学ぶ。これまで学んだ様々な理論や反応を使うため、難易度の高い分野です。

具体的には、酸塩基の電離・気体の溶解・アンモニアの合成・塩の沈殿などの多岐にわたる変化について、反応速度や反応量を考える。1,2年次の復習もしながら授業を受けよう。

2) 1学期前半は高分子

高分子は、デンプン・タンパク質・プラスチック・繊維などとして身近な有機化合物である。有機化合物の発展的な内容と考えて良い。1学期の有機化合物の内容を踏まえての話になります。

3) 2学期前半からは「各論」(物質のそれぞれの性質)、無機化学を学習する。

様々な物質の具体的な性質を周期表に沿って学んでゆく。物質の製法、性質、利用法などが中心になり、覚えることも多いが、物質の変化そのものを味わえる分野なので、とても化学らしい範囲だ。観察できる物質の性質はそれだけでも面白いが、ここまで学んできた理論が随所にあらわれて実際の性質とリンクするとき、化学の面白さは倍増するだろう。

○化学受験について

1) 共通テスト 化学基礎について

- ・基礎科目は理科4科目のうち2科目を選択する。2科目あわせて試験時間は60分。
- ・主に国公立大学文系の受験者に課せられる。
- ・看護系の学部でも受験科目として指定されることがある(大学により異なる)。
- ・基礎的な問題が多い。
- ・教科書傍用レベルの問題集を復習後、共通テスト用の化学基礎の問題集を解いて慣れると良い。

2) 共通テスト 化学について

- ・専門(基礎でない)理科の試験時間は1科目60分。
- ・国公立大学の理系では、理科4科目のうち専門2科目を選択させることが多い。
- ・標準的な問題が多いが、60分で30個近くの問題を解くので、正確さと速さが要求される。
- ・慣れが必要である。教科書傍用レベルの問題集を復習後共通テスト用の化学の問題集を解くと良い。

3) 個別試験 化学について

- ・国公立大学の2次試験や、私立大学の受験科目となる。
- ・大学によって難易度はかなり違う。

上位校を目指す人は、1学期うちに教科書傍用の問題集を復習し、夏頃から化学重要問題集を繰り返し解くと良い。

問題集に解いた記録を残そう …忘れる前に見直す…そして記憶に残していく

基礎の問題集でも受験問題集もまずは2周しましょう。解いたときの感触を○△×で問題集に直接付けておきましょう。絶対大丈夫なときだけ○を付けましょう。△は解けても、ちょっと怪しいと思うとき付けます。繰り返す回数ごとに記号の色を変えるとわかりやすいですね。

△×であった問題は、忘れないうちに復習する。何週間もたってからやり直すと、また忘れてはじめてからやり直し。問題集と勝負するのではなく、仲良くしましょう。受験直前には「全部知ってます」と豪語できるくらいに。

できるようになったら、「速く」を意識してください。解答時間の短縮、勉強時間の短縮…勉強量の増加は必ずあります。

生物基礎

学習目標

身の回りの自然や日常生活や社会との関連性を意識しながら、生物や生物現象にかかわる基礎的な内容を理解する。

1 学年生物基礎年間授業計画

科目	生物基礎	履修	必修	学年	1	単位	2単位
講座名	生物基礎	担当	田中 恵子				
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<ul style="list-style-type: none"> 生命の基本単位である細胞、エネルギーを得る仕組みである代謝、遺伝情報であるDNAから体が形成される仕組み、体内環境の維持、植生、生態系の構造について科学的な理解を深めることができる。 光学顕微鏡や実験器具を用いて基本的な実験、観察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習する生命現象について、共通点や相違点を見つけ、その原理や法則性について考察することができる。 得られたデータから、現象を読み解くことができる。 生命現象を解明するために必要な実験、仮説を考察する。 科学的用語を用いて現象を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会と関連づけながら生物や生命現象に興味・関心を持って活動することができる。 授業内容とのかかわりを意識しながら積極的に実験、観察、探究活動、発表学習等に参加することができる・学習内容について自ら科学的に思考、考察しようとしている。 				
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子等の分子、細胞、個体、生物集団、生態系などの構造や様々な学習する生命現象の仕組みについて科学的に理解しているか。 基本的な科学用語の正しい理解ができているか。 実験において基本的な観察技能を身につけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習する生命現象について、共通点や相違点を見つけ、その原理や法則性について考察できているか。 データ等から現象を読み解き、考察したり、必要な実験について考察することができるか。 生命現象について科学的用語を適切に用いて説明できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会と関連づけながら生物や生命現象に興味・関心を持って学習に取り組んでいるか。 班のメンバーと協力して実験、探究活動、発表等に積極的に取り組むことができているか。 実験レポート等の提出物に積極的に取り組み、過程を振り返って評価・改善したりしようとしているか。 				
評価方法	行動観察、小テスト及び定期考査 <ul style="list-style-type: none"> 学習への取り組みの様子、発言、記述内容。 定期考査、小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 	レポート、ワークシート等提出物及び定期考査、行動観察 <ul style="list-style-type: none"> レポート、ワークシートの記述内容に基づいて評価する。 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 実験、発表等での発言内容 	行動観察、提出物 <ul style="list-style-type: none"> 実験レポート、レポート等提出物 レポート振り返り評価 発表・探究活動での作成資料 他者との協力行動、実験、発表等への取り組み 				
月	学習の単元	学習の内容					
一学期	1章 生物の特徴	1節 生物の多様性と共通性					
	4章 生物の多様性と生態系	2節 生物とエネルギー					
時間		1節 植生と遷移					
	24	2節 植生とバイオーム					
二学期	2章 遺伝子とその働き	1節 生態系と生物の多様性					
	3章 ヒトのからだの調節	2節 生態系のバランスと保全					
時間		1節 遺伝情報とDNA					
	28	2節 遺伝情報とタンパク質の合成					
三学期	3章 ヒトのからだの調節	1節 体内環境					
	18	2節 体内環境の維持のしくみ					
時間		3節 免疫					
講習	成績不良者については指名して講習を受講させることもある。						

生物基礎を学ぶにあたって

○生物基礎の特徴

生物基礎は

1. DNAなど現代生物学の基盤となる内容
2. ホルモンや免疫など健康にかかわる内容
3. 生態系など環境の科学的な理解にかかわる内容

を学ぶことを通して日常生活や社会との関連を学習し、生物や生命現象への関心を高めることを狙いとしている。

また、生物や生命現象の中から問題を見出し、観察・実験を通して、探究の過程をたどり、科学の方法を習得し、生物学的に探究する力と態度を育てることを目的としている。

さらに、生物や生物現象は多様性に富んでいるが、多様であってもすべての生物に共通した基本的な機能や普遍的な特性が存在していることを理解し、それらに共通する生物学の基本的な概念や原理・法則を理解することが求められている。共通性と多様性を理解するためには、現存している生物が起源を共有しているということを踏まえて学習していくことが大切である。

○具体的な学び方

- ① 日常の身近な自然現象や体験を手掛かりにして関心を持って授業に臨み、授業の流れに沿って自分の頭で考えることが大切である。
- ② 集中して授業に参加し、考えながらノートをとる。板書以外にも必要に応じてメモを取る。
- ③ 次の授業までに復習を行い、疑問点は早めに自分で学習するか、質問をして解決しておく。
- ④ 用語、事象や仕組みを羅列して覚えるのではなく、以前に学習したことと関連させ、体系的に、系統的に結び付けて理解する。
- ⑤ 実験、観察に必要な技能や方法(顕微鏡の操作、観察したものを正確に記録・表現する方法など)を積極的に習得し、結果を比較して、客観的、科学的に分析・考察・探求する習慣を身に付け、レポートを作成する。
- ⑥ 考査前には、問題集を用いて各自、復習を行う。

○参考図書

- ・岩波新書カラー版 細胞紳士録 藤田恒夫 牛木 辰男 岩波書店
- ・ブルーバックス 新「細胞を読む」 山科正平 講談社
- ・カラー図解 アメリカ版 ブルーバックス 「大学生物学の教科書」 1：細胞生物学
2：分子遺伝学
3：分子生物学 講談社
- ・生物の中の時間 時計遺伝子から進化まで 西川 伸一 倉谷 滋 上田 泰己
PHPサイエンスワールド新書
- ・単純な脳 複雑な「私」 池谷 裕二 朝日出版社

○大学受験に際して

国公立文系を志望する生徒が、大学入学共通テストにおいて理科基礎2科目から生物基礎を選択し、受験する際は、1年間のブランクを経て、3年次に、1年次に学習した生物基礎の内容を復習しながら、大学入学共通テスト対応の演習問題に取り組む必要があるため、自由選択で生物基礎演習(1単位)を選択するのが望ましい。生物基礎を受験で選択することを決めたら、2年次のうちに1年次の問題集を用いて復習をしておく。

生物

学習目標

「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象をさらに広範に取り扱い、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。

3 学年生物年間授業計画

科目	生物	履修	必修・自選	学年	3	単位	4 単位
講座名	生物	担当	未定				
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生物現象の特徴には共通性と多様性があることを理解する。 多くの生物的・非生物的要因が互いに関与し、有機的な関連を持って働いていることを理解する。 						
月	学習の単元		学習の内容				
一学期 時間 48	4	第一部 生命現象と物質 第1章 生命と物質 第2章 代謝 第3章 遺伝現象と物質	生体物質と細胞 生命現象とタンパク質 呼吸 発酵 炭酸同化 窒素同化 遺伝情報とその発現 遺伝子の発現調節 バイオテクノロジー				
	6	第二部 生殖と発生 第1章 有性生殖	減数分裂と受精 遺伝子と染色体 受精の多様性 減数分裂の多様性				
	7						
二学期 時間 56	9	第2章 動物の生殖と発生 第3章 植物の生殖と発生	動物の配偶子形成と受精 初期発生の過程 動物の細胞の分化と形態形成 植物の受精 種子形成と胚発生 植物の器官形成				
	10	第三部 生物の環境応答 第1章 動物の反応と行動 第2章 植物の環境応答	刺激の受容 神経 効果器 神経系 動物の行動 発芽と成長の環境応答 開化と老化の環境応答 植物の一生と環境応答				
	11	第四部 生態と環境 第1章 生物の生活と環境 第2章 個体群と生物群集 第3章 生態系	環境要因 環境と適応 個体群とその変動 異種個体群間の関係 生物群集とその構造 生態系と物質生産 生態系と生物多様性 生命の起源と生命の変遷 生物界の変遷と地球環境の変化				
	12	第五部 生物の進化と系統 第1章 生物の進化 第2章 進化とそのしくみ 第3章 生物の系統	人類の起源と進化 進化の証拠 生物の変異と進化 生物の分類と系統 原核生物の分類と系統 原生生物の分類と系統 植物の分類と系統 菌類の分類と系統 動物の分類と系統				
	12						
三学期 時間	1 2 3	特別時間割	入試問題演習				
評価の方法	<p>関心・意欲・態度 : 授業、実験への取り組みを通じて総合的に評価する。</p> <p>知識・理解 : 小テスト、定期考査で評価する。</p> <p>観察・実験の技能 : 実験への取り組みで評価する。</p> <p>思考・判断・表現 : 実験のレポート、授業の提出物で総合的に評価する。</p>						
講習	夏季講習では一学期の授業の続きと問題演習を行い、特別講習では共通テスト対策を行う。						

生物の学習

○「生物」の特徴

- ・近年の生命科学の急速な進歩を反映した内容を取り入れて、「生物基礎」と合わせて学習内容が再構築されている。
- ・生物現象の仕組みや概念相互の関係を扱い、「生物基礎」で学習した生物や生物現象の概念の理解をさらに深めさせるよう構成されている。
- ・生物や生物現象を分子の変化や働きを踏まえて扱う内容、動物や植物について主に個体レベルでみられる現象やそのしくみ、生態や進化など生物界全体を概観する内容など
ミクロレベルからマクロレベルまで幅広い領域を学ぶ構成になっている。

○「生物」の学び方のポイント

- ①本来の「生物」の学習は、興味・関心の高い生徒にとっては生命の神秘を探究する興味深いテーマが盛りだくさんではあるが、受験科目としての「生物」は1年次に学習した「生物基礎」から一年のブランクを経て新たにスタートするにもかかわらず、広範囲な内容を細かい部分までかなり詳しく勉強する覚悟がいる。かつ入試にも対応できる力をつけるには、やり抜く強い信念と忍耐力、集中力も必要となる。
- ②分野ごとに、教科書、図説、プリントの内容を詳しく、用語、仕組みなどに注目し、正確に理解する。
- ③単元ごとの内容の理解に合わせ、同時進行で演習問題に取り組み、共通テストまでに実戦問題レベルまで力をつける必要がある。(自由選択の生物演習にて授業の進度に合わせて演習を進める)
- ④学習してきた内容を体系的に、総合的に結び付けることが重要である。一つの生命体としていろいろな働きがどのようなつながりを持って有機的に機能しているかを把握する。さらに、その生物が生命誕生以来長い歴史の末に今日に至った経緯を遺伝子のレベルを念頭に置きながら追って理解できることが大切である。
- ⑤大学入学共通テストに対応できる演習や、個別入試対策のための記述式問題に対応する練習問題も短い時間で行わなければならないため、**自由選択の生物演習(2単位)**を選択することが望ましい。
- ⑥生物を受験科目として選択することを決めたら、2年生の間に1年次に使用した問題集を用いて生物基礎の復習を終わらせておくとよい。
- ⑦一般向けの科学雑誌(例;Newton)や、新聞、テレビ等で生物学関連の時事問題や知識に触れていると学習の理解に役立つ。それについて自分の意見を持ち、家族と議論するなどまとめておくとよい。



地学基礎

学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取りまく環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2 学年地学基礎年間授業計画

科目	地学基礎		履修	必選		学年	2	単位	3 単位
講座名	地学基礎		担当	田村 尚志					
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地学基礎では、地学的な事物や現象のうち基礎となる内容を扱い、それらを一連の時間の流れの中で捉えられるようにする。 ・地球環境の変化、日本の自然環境とその恩恵や災害など、日常生活や社会との関連を意識しながら地球や地球を取り巻く環境を理解する。 								
月	学習の単元		学習の内容						
一 学 期	4	第1部 固体地球とその変動	<ul style="list-style-type: none"> ・地球の概観について学び、その内部構造について理解する。 ・プレートと地球の活動について理解し、地震や火山活動、火成岩の結晶組織や形成過程について学ぶ。 						
	5	第1章 地球							
	6	第2章 活動する地球							
	7								
時間	36								
二 学 期	9	第2部 移り変わる地球	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積岩とその形成や地層と地質構造について学び、地球の歴史の組み立てについて理解する。 ・古生物の変遷と地球環境の変化について理解し、46億年にわたる地球の歴史について学ぶ。 ・太陽系の誕生について理解し、太陽の表面の現象と太陽のエネルギー源及び太陽系の天体について学ぶ。 						
	10	第1章 地球史の読み方							
	11	第2章 地球と生命の進化							
	12	第4部 宇宙の構成							
時間	42	第1章 太陽系と太陽							
三 学 期	1	第2章 恒星としての太陽の進化	<ul style="list-style-type: none"> ・恒星としての太陽の誕生と進化を理解する。 ・銀河系とまわりの銀河について学び、宇宙の誕生と銀河の分布について理解する。 ・大気層構造や地球全体のエネルギー収支について理解し、大気の大循環や海水の循環について学ぶ。 ・日本で見られる冬から春、夏から秋への季節の気象について学ぶ。 ・地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解し、日本の自然災害と防災について学ぶ。 						
	2	第3部 大気と海洋							
	3	第1章 大気と海洋							
	27	第2章 太陽放射と大気・海水の運動							
時間	27	第3章 日本で見られる季節の気象							
27		第5部 自然との共生							
評価の方法	<p>関心・意欲・態度：授業への取り組みを通じて、総合的に評価する。</p> <p>知識・理解：基本的には定期考査で評価をする。</p> <p>観察・実験の技能：実習への取り組み等で評価をする。</p> <p>思考・判断・表現：授業ノートや提出物で、総合的に評価する。</p>								
講習	必要に応じて講習を行う。成績不良者には課題を提出することもある。								

地学基礎の学び方

○地学とは

地球科学の略称である地学は、地球と宇宙のしくみと成り立ちを考える学問であり、日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、観察・実験などを通して、科学的な見方や考え方を養う科目です。したがって、地学は自然を物理・化学・生物の分野から総合的に研究する学問であるともいえます。よって地学を学ぶためには、最新情報に気を配りながら常に身の回りの地学的な事物・現象に関心を持ち、主体的・積極的に関わっていくことが大切です。

○学習をする上で留意すること

1) 自然との関わりを意識しよう！

東京は世界一都市化が進んでいる場所のひとつですが、意識すれば日常生活のいたるところに地学で学ぶことが発見できます。また3.11で思い知らされたように、日本は世界的な地震国です。東京に住んでいる以上、今後も大きな地震を避けて通ることは出来ません。自らの身を守るためにも、地学の学習を通して自然についての正しい知識・理解を身につけてほしいと思います。

2) 自然現象に好奇心を持とう！

例えば、なぜ今日はこうした天気なのだろうか？と考えてみて下さい。その他、新聞やテレビなどで報道される地震、火山、天文などのニュースに興味を持つ気持ちが地学の学習を一層面白くします。昼間は風が吹き、空に雲が浮かび、太陽が東から西の空へ動いていきます。夜は光害の空であっても、月や金星・木星などの惑星が輝いています。そして三田高校に至る「綱の手引坂」も、坂がそこにある理由があるのです。

3) 実習・観察などに積極的に参加して、よく考えよう！

答を待っている態度では、いつになっても学習効果は上がりません。自らの手や目、頭を大いに働かせて考えることが肝心です。そのためには、例えば「銀河学校」（東京大学木曾観測所で毎年開催されている高校生を対象とした天文学実習）など、校外で行われているイベントにも積極的に参加してみよう！

○最後に

主に文系の国公立大学を目指す人で、身近な科学的な現象に興味を持てる人は、「地学基礎」を得意科目にして、共通テストに利用すれば大いなる武器になることでしょう。

「縞縞学」（地球のリズミカルな変動）

私たちの身のまわりには様々な縞模様があります。例えば木の年輪や木星の表面の縞模様など。

地球科学の分野の発展に最も大きな影響を与えた縞模様は、海洋底の地磁気の縞模様でしょう。海底の大山脈である中央海嶺をはさんで海洋底の地磁気の縞模様が対称であることから、海洋底拡大説が注目され、さらにプレート・テクトニクスへと発展していったことはよく知られています。

ところで南オーストラリアには、約6億年前に堆積した「エラチナ砂岩層」と呼ばれる、砂岩と泥岩がリズミカルに堆積し美しい縞模様を成した氷河時代の地層があります。この潮汐リズムを記録した部分の岩石の残留磁気を研究した結果、この地層は赤道に近い地域で堆積していたことが分かりました。このことから約6億年前には氷河作用が赤道にまで及んでいた、つまり地球全体が凍結していたという「スノーボール・アース仮説」が提唱されるようになったのです。

縞模様の刻まれた地層は、地球史を記録した証です。それらを従来とは異なる視点で捉えることで、「新しい地球観」が誕生したのです。

科目名 生物基礎
年間授業計画

科目	生物基礎	履修	必修	学年	1	単位	2単位
講座名	生物基礎	担当	田中 恵子				
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の基本単位である細胞、エネルギーを得る仕組みである代謝、遺伝情報であるDNAから体が形成される仕組み、体内環境の維持、植生、生態系の構造について科学的な理解を深めることができる。 ・光学顕微鏡や実験器具を用いて基本的な実験、観察を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習する生命現象について、共通点や相違点を見つけ、その原理や法則性について考察することができる。 ・得られたデータから、現象を読み解くことができる。 ・生命現象を解明するために必要な実験、仮説を考察する。 ・科学的用語を用いて現象を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会と関連づけながら生物や生命現象に興味・関心を持って活動することができる。 ・授業内容とのかかわりを意識しながら積極的に実験、観察、探究活動、発表学習等に参加することができる ・学習内容について自ら科学的に思考、考察しようとしている。 				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子等の分子、細胞、個体、生物集団、生態系などの構造や様々な学習する生命現象の仕組みについて科学的に理解しているか。 ・基本的な科学用語の正しい理解ができているか。 ・実験において基本的な観察技能を身につけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習する生命現象について、共通点や相違点を見つけ、その原理や法則性について考察できているか。 ・データ等から現象を読み解き、考察したり、必要な実験について考察することができるか。 ・生命現象について科学的用語を適切に用いて説明できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会と関連づけながら生物や生命現象に興味・関心を持って学習に取り組んでいるか。 ・班のメンバーと協力して実験、探究活動、発表等に積極的に取り組むことができているか。 ・実験レポート等の提出物に積極的に取り組み、過程を振り返って評価・改善したりしてようとしているか。 				
評価方法	行動観察、小テスト及び定期考査 <ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組みの様子、発言、記述内容。 ・定期考査、小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 	レポート、ワークシート等提出物及び定期考査、行動観察 <ul style="list-style-type: none"> ・レポート、ワークシートの記述内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 ・実験、発表等での発言内容 	行動観察、提出物 <ul style="list-style-type: none"> ・実験レポート、レポート等提出物、 ・レポート振り返り評価 ・発表・探究活動での作成資料 ・他者との協力行動、実験、発表等への取り組み 				
月	学習の単元	学習の内容					
一学期	1章 生物の特徴	1節 生物の多様性と共通性 2節 生物とエネルギー					
	4章 生物の多様性と生態系	1節 植生と遷移 2節 植生とバイオーム 3節 生態系と生物の多様性 4節 生態系のバランスと保全					
二学期	2章 遺伝子とその働き	1節 遺伝情報とDNA 2節 遺伝情報とタンパク質の合成					
	3章 ヒトのからだの調節	1節 体内環境					
三学期	3章 ヒトのからだの調節	2節 体内環境の維持のしくみ 3節 免疫					
講習							

科目	化学基礎	履修		学年	1	単位	2単位
講座名		担当	新林 圭 ・ 田中 遼				
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<ul style="list-style-type: none"> 元素記号, 化学式, 物質名を覚え, 正確に記す。 化学の原理や法則を理解する。 化学実験において, 安全に, 他者と協力して取り組む。 化学実験で, 実験器具を適切に選択し, 正しく操作する。 	<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化について, 共通点や相違点を見つけ, 原理や法則について考える。 原子・分子の視点で, 結合や化学反応を説明する。 化学反応の量的な関係を物質量を用いて計算する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連づけながら化学に関心をもっている。 見通しをもって観察, 実験を行おうとしている。 学習内容について自ら化学的に思考したり, 考察する。 				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 元素記号, 化学式, 物質名を正しく書ける。 学習内容の原理や法則を正しく理解している。 安全に留意し, 正しい操作で実験を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 化学的な事象から共通点や相違点を見つけ, 原理や法則を説明できる。 結合や化学反応を原子・分子の視点で説明できる。 物質量を用いて, 化学反応を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験内容や結果を日常生活や既習ないように関連づけることできる。 実験を見通しをもって取り組んでいる。 				
評価方法	小テスト, 定期考査, 行動観察, パフォーマンステスト ・小テストを実施し, その結果に基づいて評価する。 ・パフォーマンステストを行い, その結果に基づいて評価する。	実・験レポート, 定期考査 ・実験レポートの記述内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し, その結果に基づいて評価する。	行動観察, 実験レポート ・実験中の操作, 結果, 他者との協力を行動観察し, 評価する。 ・講義, 実験の内容を思考, 考察しているかを, 実験レポートの記述内容を基に評価する。				
月	学習の単元	学習の内容					
一学期	1章 物質の探求	<ul style="list-style-type: none"> 物質の分離と精製 物質の成分 原子の構造 電子配置と周期表 イオンとイオン結合 金属と金属結合 分子と共有結合 					
時間	物質の構成粒子						
	物質と化学結合						
二学期	物質量と化学変化	<ul style="list-style-type: none"> 原子量・分子量と物質量 モル濃度 化学変化の量的関係 酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩の生成 中和反応の量的関係と中和滴定 					
時間	酸と塩基						
三学期	酸化と還元	<ul style="list-style-type: none"> 酸化と還元 酸化剤還元剤 イオン化傾向 酸化還元反応の利用 					
時間							
講習							

保健体育科

保健体育科学習指導計画

教科の学習目標

保健体育科では、健康の保持増進と体力の向上を図り、個人的にも社会的にも健康で安全な生活を営む態度や習慣を育成する。

講座名	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
保健	1	共通	1	現代高等保健体育 （大修館書店）	
体育	1	共通	2	現代高等保健体育〔体育編〕 （大修館書店）	
保健	2	共通	1	現代高等保健体育 （大修館書店）	
体育	2	共通	2	現代高等保健体育〔体育編〕 （大修館書店）	ステップアップ高校スポーツ（大修館書店）
体育	3	共通	3	現代高等保健体育〔体育編〕 （大修館書店）	ステップアップ高校スポーツ（大修館書店）

三ヶ年間の授業計画を組み、陸上競技・球技・水泳・ダンスと保健を学習することになっている。

保健体育を学ぶにあたって

○体育

高校期は、体格や体力の充実期に当たっている。しかし、近年高校生の体格の伸びは著しい反面、筋力・持久力などがそれに伴った発達をしていないという指摘があるだけに、この時期に十分な運動刺激を与えて体力の充実を図ることは大変に重要なことである。同じことが運動技能についても言える。例えば水泳についていうと、高校までに泳げるようになっていないと、それ以後は殆ど学習する機会はないし、機会があっても覚えるのが非常に難しくなる。他の種目についても同じことが言える。従って、高校の保健体育では、筋力・持久力・柔軟性・調整力などの体力を直接的に高めることをねらいとし、運動技能を身に付けて動きやすいからだを作ることを学習の一つのねらいとしている。

○「一校一組運動」

本校では、体力の維持増進として授業ごとにラジオ体操を徹底して行っている。ラジオ体操は、生涯にわたって行うことができる運動である。

また、縄跳びは検定表を用いて実施している。

○「6月体力テスト月間」

東京都の運動能力・体力測定を6月に実施する。

『からだを使って脳を鍛える』

脳の訓練とは、「頭を使えば、頭が良くなる」ということである。筋肉を使うことで筋肉が増強されるのと同じで、脳も積極的に使うことで訓練されるのである。もちろん、学校生活でも脳を積極的に使いたいものである。

ところで、「頭を使う」というと何かを深く考えることだけのように思いがちだが、そうではない。脳は、外部からの情報を取り入れ、それを総合的に判断して全身をコントロールする司令塔である。そこで、脳に情報を送り込む身体を鍛えることが、脳を鍛えることにもつながる。

筋肉には、脊髄から出ている運動神経の情報を受けて収縮し、骨を動かすが、収縮の精度を高めるために、脊髄から出る筋紡錘という感覚神経もまた筋肉につながっている。筋肉を動かすと、筋紡錘からの感覚神経が情報を脊髄に送り、運動神経を微調整する。

すべての筋肉運動に脳を活性化する効果があるが、その程度には違いがある。筋紡錘から脳への情報の強さは、筋肉の太さに比例する。筋肉で最も太いのは大腿筋であるから、ウォーキング・ジョギング（走る、駆け足）など、大腿筋を使う運動が脳の働きを最も効率よく高めることになる。そのほか、腕立て伏せ・柔軟体操・咀嚼（噛むこと）・指の運動などは、手軽にできる脳の活性化法である。

脳は、身体を動かしているが、逆に、身体を動かすことが刺激となって脳の活動が増す。脳と身体の動きは一方通行ではなく、相互通行である。

すなわち、机に向かって勉強するばかりが脳の性能を高める方法ではない。宮本武蔵に代表される一流の武芸者たちが、文武両道に励んだことから分かるように、スポーツの練習ばかりが、競技会で好成績を上げる方法ではない。

保健（1年）

学習目標

健康安全についての正しい知識を習得する。
 理解したことを日常生活で実践する態度・習慣を身に付ける。
 真に健康な個人生活・社会生活を営む能力を養う。

1 学年保健年間授業計画

科目	体育	履修	必修	学年	1	単位	1 単位
講座名	保健	担当	未定				
	【知識及び理解】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】		
目標	現代社会と健康について課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、それを表現することができる。		現代社会と健康について、課題の解決を総合的に考え、判断し、それを表現することができる。		現代社会と健康について、意欲的に学習に取り組もうとする。		
評価規準	現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解している。		現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、総合的に考え、判断し、それらを表現している。		現代社会と健康について、健康を保持増進するために、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに興味を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。		
評価方法	考査 レポート		行動観察 発表 レポート		行動観察 発表 レポート		
月	学習の単元		学習の内容				
一 学 期	4	私たちの健康のすがた 健康のとらえ方	わが国における健康水準の向上・健康問題の変化を理解する。 健康についての基本的な考え方、とらえ方を学び理解する。 適切な意思決定・行動選択が必要であり社会的要因が影響することを理解する ヘルスプロモーションの考え方について理解を深める。 生活習慣病の発病や進行について理解し、生活習慣が重要であることを理解する 健康の保持増進にとって食事は特に重要な要素であることを学び理解する。 運動の意義を学び、運動を継続していくために何が必要かを理解する。 疲労回復等、よりよい休養・睡眠のあり方について理解する。 禁煙社会を実現するには社会全体での取り組みが重要であることを理解する。				
	5	健康と意思決定・行動選択					
6	健康に関する環境づくり						
時 間	6	生活習慣病とその予防					
	7	食事と健康					
7	運動と健康						
		休養・睡眠と健康					
		喫煙と健康					
二 学 期	9	飲酒と健康	飲酒による健康への短期的・長期的影響について理解する。 薬物乱用が引き起こす社会問題と薬物乱用防止のための対策について理解する。 感染症の流行の背景に自然・社会環境の変化がかかわっていることを理解する。 予防の原則は、感染源・感染経路・感受性者対策であることを理解する。 性感染症・エイズについて基本的知識を学び、予防対策を学び、理解する。 欲求が満たされない場合の心の変化や適応機種の働きを理解する。 心身の相関とストレスは、相互に関係していることを理解する。 ストレスの意味、しくみを理解し、ストレス対処と自己実現を理解する。 自分らしい生活をしていくために、自己実現について学び理解する。				
	10	薬物乱用と健康					
時 間	10	現代の感染症					
	11	感染症の予防					
11	性感染症・エイズとその予防						
12	欲求と適応機制						
		心身の相関とストレス					
		ストレスへの対応					
		心身の健康と自己実現					

三 学 期 時 間	1	交通事故の現状と要因 交通社会における運転者の資質と責任	交通事故の現状と主体・環境・車両要因の関係について理解する。 運転者として必要な資質と責任があることを学び理解する。
	2	安全な交通社会づくり 応急手当の意義とその基本	交通事故防止の重要な対策である安全な交通社会づくりについて理解する。
	3	心肺蘇生法 日常的な応急手当 3.11を忘れない	緊急時の積極的な行動が人命救助につながることを理解する。 正確な心肺蘇生法の習得をめざし、原理を理解する。 適切な判断と応急手当の方法を身に付け、必要性について理解する。 防災意識を高めるために、『災害の発生と安全・健康』東京が震える前にと いうテキストを使用して防災に対する意識を高める。
講 習			

保健の学び方

○保健の学習について

人は誰しも健康を望んでいる。にもかかわらず、個人生活・社会生活のいずれにも健康を害するようなことを容易に見過す傾向がある。それには、正しい知識をもたないためにそうなっている場合と、知っていながら、なおかつそうなっている場合と二通りが考えられる。

保健学習の狙いは、一つは健康安全についての正しい知識を習得し、もう一つは理解したことを日常生活で実践する態度習慣を身に付けることによって、真に健康な個人生活・社会生活を営む能力を養うことにある。これは保健を学習する二ヶ年に限らず生涯続くべきものである。刻々変容する社会に生きる皆さんは、10年先20年先に、現在予測できないような変化に対した場合にも“人類の健康”を基盤とした正しい対処のしかたができるような考え方を養って行かなくてはならない。

本校の保健体育科のカリキュラムは、以上のような観点から立てられている。学習する皆さんもこのような点を十分意識して学習し、効果を上げてほしい。このことは保健体育の正課の授業だけでなく、部活動その他の活動をするときには常に心がけてほしいことである。さらに、日常生活のすべての面に押し広げていくことによって、皆さんが健康で、学級・学校という集団社会での生活が円滑に行われるような生活習慣を身に付けることを期待します。

○3. 11を忘れない

3. 11を教訓として、防災意識を高めるために、東京都教育委員会より配付された冊子『災害の発生と安全・健康』東京が震える前にというテキストを使用して防災に対する意識を高めるために科目『保健』の中に取り入れて授業を行うことにしている。

1) 地震による被害 ー大都市東京への教訓ー

2) 東京にも大地震が来るのだろうか

(なぜ地震が多いのか・関東大震災について・活断層について・首都直下で起こる地震・液状化現象)

3) 地震・津波を知る

(断層運動によっておこる・海底の変動が津波を起こす・余震の発生が続く)

4) 緊急地震速報を有効に活用するために

5) 高校生ができること ー自助・共助ー

①自助～まず自分の命を守る

家具等への備えチェック

②共助～身近な人を助け、さらに地域に貢献する

初期消火・応急手当・倒壊家屋等からの救出・怪我をした人の搬送

6) 避難訓練や防災訓練の意義 ー4回の避難訓練・宿泊防災訓練の実施

7) 『171 (災害用伝言ダイヤル)』の利用法

『心の免疫を高めよう』

- ①プラス思考：全てのことをポジティブに捉える習慣をつける。失敗したらどうしようというのではなく、「これから先は必ずよくなる」と成功した自分を思い浮かべる。
- ②持続する意欲、意志：意欲は待っていれば出てくるものではありません。意欲をもつ、物事に集中するという精神の働きは生まれつきのものではなく、環境や習慣によって形成される場所が大きいのです。意欲をもつ訓練をし、それを持続させる努力をすることが重要です。
- ③生きがい：家族や友人を大切に思い、周りの意見を受け入れ、自分について知る。また、芸

保健（２年）

学習目標

- 健康安全についての正しい知識を習得する。
- 理解したことを日常生活で実践する態度・習慣を身に付ける。
- 真に健康な個人生活・社会生活を営む能力を養う。

2 学年保健年間授業計画

科目	保健体育		履修	必修		学年	2	単位	1 単位
講座名	保健		担当	未定					
学習の目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにする。 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。								
月	学習の単元		学習の内容						
一 学 期	4	2 単元 生涯を通じる健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択	思春期の体と健康・心と健康を理解する。 性意識の変化と異性の尊重、性情報と性行動について理解する。						
	5	結婚生活と健康 妊娠・出産と健康	心身の発達と結婚生活、家族の健康について理解する。 受精・妊娠・出産と出産期の健康について理解する。						
	6	家族計画と人工妊娠中絶 加齢と健康	家族計画の意義と避妊法、人工妊娠中絶について理解する。 加齢にともなう心身の変化と中高年期を健康に過ごすための理解をする。						
	7	高齢者のための社会的取り組み 保健制度とその活用	高齢者の健康課題とその支援、健康で暮らすための取り組みを理解する。 保健行政の役割と保健サービスの活用について理解する。						
時間	12								
二 学 期	9	医療制度とその活用 医薬品と健康 さまざまな保健活動や対策	医療制度と医療保険のしくみ、医療機関と医療サービスの活用について理解する。 医薬品の種類と使い方、安全性のための対策について理解する。 健康づくりのための活動や民間・国際機関の保健活動について理解する。						
	10	3 単元 社会生活と健康 大気汚染と健康							
	11	水質汚濁・土壌汚染と健康 健康被害の防止と環境対策 環境衛生活動のしくみと働き	大気汚染の原因と健康被害、地球規模の問題について理解する。 水質汚濁・土壌汚染と健康被害、大気・水質・土壌汚染の関わりについて理解する。						
	12	食品衛生活動のしくみと働き	環境汚染の防止と対策、産業廃棄物処理と健康について理解する。 ゴミの処理、上下水道の整備とし尿処理について理解する。						
時間	14								
三 学 期	1	オリンピズム オリンピック・パラリンピックと 日本	オリンピズムの根本原則を理解する。 オリンピック・パラリンピックに関する日本の活躍や歴史を理解する。						
	2	世界に発信する日本の良さ 東京オリンピック・パラリンピッ クが目指すもの	スポーツが果たす役割から平和について考える。						
	3								
時間	9								
評価の方法	各学期の定期考査・ノート提出・レポート提出・授業態度等総合的に判断する。								
講習	成績不良者に対して講習を行うことがある。								

保健の学び方

○保健の学習について

人は誰しも健康を望んでいる。にもかかわらず、個人生活・社会生活のいずれにも健康を害するようなことを容易に見過ごす傾向がある。それには、正しい知識をもたないためにそうなっている場合と、知っていながら、なおかつそうなっている場合と二通りが考えられる。

保健学習の狙いは、一つは健康安全についての正しい知識を習得し、もう一つは理解したことを日常生活で実践する態度習慣を身に付けることによって、真に健康な個人生活・社会生活を営む能力を養うことにある。これは保健を学習する二ヶ年に限らず生涯続くべきものである。刻々変容する社会に生きる皆さんは、10年先20年先に、現在予測できないような変化に対した場合にも“人類の健康”を基盤とした正しい対処のしかたができるような考え方を養って行かなくてはならない。

本校の保健体育科のカリキュラムは、以上のような観点から立てられている。学習する皆さんもこのような点を十分意識して学習し、効果を上げてほしい。このことは保健体育の正課の授業だけでなく、部活動その他の活動をするときには常に心がけてほしいことである。さらに、日常生活のすべての面に押し広げていくことによって、皆さんが健康で、学級・学校という集団社会での生活が円滑に行われるような生活習慣を身に付けることを期待します。

A I D S

■エイズは人間の免疫を破壊する病気です。

○エイズは

Human Immunodeficiency Virus (H I V) の感染で引き起こされる、
ヒト 免疫不全 ウイルス

Acquired ImmunoDeficiency Syndrome (A I D S) の頭文字をとった病名です。
後天性 免疫 不全 症候群

○人間の体は、いろいろな病原体から身を守る力が備わっています。これを**免疫**といいます。

H I Vは、人間の免疫の中心的な役割を果たすヘルパーT細胞（CD4リンパ球）に感染し、これを破壊します。このため、免疫力が低下して、様々な病原体による感染症にかかりやすくなります。（悪性腫瘍等）

■H I Vに感染しても自分では気が付きません。

○H I Vに感染してからの経過は、6ヶ月～10年以上の無症状期があり、すぐには症状が現れません。（この期間にも他の人に感染する可能性があります）

○自分の大切な人を守るためには、早期発見が大切です。感染したかどうかは、H I V検査（血液検査）を受けることにより、感染しているかどうかを知ることができます。

○エイズの治療

完全に治す薬はありませんが、治療を受けることによって発病を抑えることができるようになりました。（ART療法：長期生存が可能となった）

■H I Vの感染経路

○①血液を介する感染 ②性的接触による感染 ③母子感染の三つの経路です。

■H I V感染の予防

○H I Vの感染を予防するために一人一人ができること。

感染経路を絶つこと。性的接触をしないこと。

■H I V感染者やエイズ患者であるということによって偏見や差別に苦しんでいる人がいます。H I V感染者やエイズ患者と共に生きる社会づくりを目指しましょう。

体育実技（1 学年）

学習目標

各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すとともに、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を育てる。

1 学年体育年間授業計画

科目	体育		履修	必修		学年	1		単位	2 単位			
講座名	体育		担当	栞原・小嶋・佐藤・横山・福田・高田									
	【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度】						
目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、各単元において、示された技能を身に付けるようにする。			健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う			生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、継続して、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
評価規準	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。			自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、それらを表している			運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち意欲的に学習に取り組もうとしている。						
評価方法	行動観察 スキルテスト 学習カード			行動観察 学習カード			行動観察 学習カード 出欠状況						
月	学習の単元			学習の内容									
一 学 期	4	男女共通 ・水泳 ・バドミントン ・体育理論			○水泳 ・平泳ぎおよびクロールの習得 ○バドミントン ・サーブやストロークなどの基本的な運動動作の習得 ・ゲームやリーグ戦を通して、試合運営やルールの理解、戦術の理解をする。 ○陸上 ・ハードル走、短距離走、ジャベリックスローにおける基本的な運動動作の習得 ○サッカー ・ゲームやリーグ戦を通して、試合運営やルールの理解、戦術の理解をする。 ○体育理論：運動スポーツの文化的特徴の理解								
	5												
	6												
時間	7	男子：陸上競技 女子：サッカー											
二 学 期	8	男女共通 ・バレーボール ・水泳 ・体育理論			○水泳 ・平泳ぎ、クロールのタイム計測。安定して長く泳ぐ。早く泳ぐための課題を解決する。 ○バレーボール ・サーブやパスなどの基本的な運動動作の習得 ・ゲームやリーグ戦を通して、試合運営やルールの理解、戦術の理解をする。 ○サッカー ・ゲームやリーグ戦を通して、試合運営やルールの理解、戦術の理解をする。 ○体育理論：運動スポーツの文化的特徴の理解								
	9												
	10												
時間	11	男子：サッカー 女子：ダンス											
12													
三 学 期	1	男女共通 ・持久走 ・硬式テニスまたはバスケットボール ・体育理論			○持久走 ・距離走、タイム走を通して、自己の課題を見つけ、体力の向上を図る。 ○硬式テニス ・サーブやストロークなどの基本的な運動動作の習得 ○バスケットボール ・基礎基本的な個人スキルの習得 ・ゲームやリーグ戦を通して、試合運営やルールの理解、戦術の理解をする。 ○体育理論：運動スポーツの文化的特徴の理解								
	時間												2
	3												
講習													

体育の授業を受けるにあたって

○単位の履修・修得と評価に関して

- ①単位：1週当たりの授業時間：1学年と2学年は男女とも2単位。3学年は男女とも3単位。
- ②履修：各学年とも体育は必履修科目。学校が定めた欠席時間数を超えた場合は、履修が認められず、未履修となる。
- ③修得：実授業数の欠席数が多い場合は評価「1」とする。また、総合的に判定した結果、評価を「1」とすることがある。学年末で評定「1」となった場合は、未修得となる。
- ④評価・評定：実技テスト、出席状況、授業態度を総合して評価される。従って、運動能力の優劣だけの評価ではないので、運動が不得意であっても出席や授業の取り組み姿勢で、ある程度カバーすることができる。

○遅刻・見学について

- ①遅刻：必ず更衣・出席した時点で担当教諭に申し出る。
：大幅な遅刻は欠席扱いとなる。授業に参加することは構わない。
- ②見学：見学理由を生徒手帳の諸届欄に記入し、事前に担当教諭に届け出て確認を得る。
：病気・負傷等により長期間の見学を要する場合には、診断書を提出するとともに各担当教諭の指示を受ける。

○更衣について

- ①更衣は迅速に行い「体育」の授業は勿論のこと、次の授業にも支障のないようにすること。
- ②更衣場所は、男子は各教室、女子は体育館1階更衣室を利用する。水泳の授業では、男女ともプール更衣室を使用すること。

○体育着について

- ①授業時には、学校指定のトレーニングウェアを着用する。
 - ・トレーニングシャツの下に着るTシャツは、学校指定の半そでTシャツとする。
 - ・ハーフパンツも学校指定のものとする。
- ②運動靴
 - ・体育館・校庭（テニスコート）・ピロティアーは、学校指定の校内運動靴を使用する。
 - ・グラウンド授業のときは、各自グラウンド専用の運動靴を用意する。（学校指定品ではない）
- ③水着について
 - ・水着は、紺又は黒の競泳用水着かスクール水着とする。（学校指定品ではない）
 - ・水泳用の帽子を着用する。色・形・素材は自由。
 - ・ゴーグルの使用は自由とする。

○授業中の注意に関して

- ①時計及び装身具（ネックレス・指輪・ピアス・ブレスレット等）は、危険防止のため一切身に付けないこと。また、長い髪は束ねること。
- ②体調に異変が生じた場合は、無理をせず直ちに運動を中止し、担当教諭に申し出る。
- ③軽率な行動で怪我をすることのないよう、安全には十分注意すること。
- ④授業中の給水は、担当教諭の許可を得てから行うこと。
- ⑤貴重品の管理は、個人で管理するか、担当教諭に管理してもらう。

体育実技（2学年）

学習目標

各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を促すとともに、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を育てる。

3年で行うグループ学習の下準備として自ら考え行動できる態度や協調性を養う。

2学年体育年間授業計画

科目	保健体育	履修	必修	学年	2	単位	2単位
講座名	体育	担当	未定				
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 水泳：5月から10月まで温水プールで行う。 2年生の目標は、男子は背泳ぎ・バタフライの50M完泳。 女子は背泳ぎ・平泳ぎ・クロールの75M完泳。 選択種目：各種目の特性を理解して、基本的な動き、グループ活動、ルールを習得する。 						
月	学習の単元	学習の内容					
一学期	4 男女 オリエンテーション 体ほぐし・体づくり・体育理論	2年生として、体育実技の内容、実施方法についての学習 柔軟運動や理論について学習する					
	5 男子						
	6 水泳（4月～9月） サッカー、バレーボール						
	7 女子						
時間	水泳（4月～9月） ソフトボール・バレーボール	背泳ぎ・バタフライの基礎、平泳ぎ・クロールの復習 各種目の基礎基礎技術の習得とゲーム（ルールの理解）					
24							
二学期	9 男子 水泳（9月） バスケットボール・ハンドボール	背泳ぎ・バタフライの50Mタイム測定。 各種目の基礎技術習得とゲーム（ルールの理解）					
	10 女子 水泳（9月）						
	11 バスケットボール・サッカー						
時間	バスケットボール・サッカー	背泳ぎ・平泳ぎ・クロールの75Mタイム測定 各種目の基礎技術習得とゲーム（ルールの理解）					
28	12						
三学期	1 男子 体づくり 選択（バドミントン・テニス）	縄跳びや走り（持久走）などを通して体力をつける 各種目の基礎技術習得とゲーム（ルールの理解）					
	2 女子						
時間	3 体づくり 選択（バドミントン・テニス）	縄跳びや走り（持久走）などを通して体力をつける 各種目の基礎技術習得とゲーム（ルールの理解）					
18							
評価の方法	各種目の記録や習得度・授業態度・欠席・見学を考慮して総合的に評価する。						
講習	申し出た生徒に対して行う。						

各領域別の内容

○運動に関する内容

1. 体力を高めるための体操
2. スポーツの技能を高めるための体操
3. 健康増進のための体操

○陸上競技

走、跳、投などの運動で、より速く走る、より遠くへ跳ぶ、より高く跳ぶ、より遠くへ投げることをねらいとし、自己の記録を高めたり、定められたルールや条件のもとで時間や距離、高さを競い合ったりする運動。

したがって、自己の記録を向上するための各種の技能を高め、記録の向上の喜びや競争の楽しさを味わうことができるようにすることが大切。

○水泳

浮く、泳ぐ、呼吸をするなどの技能によって成立している運動で、各種の泳法で、より長く、しかも速く泳ぐことをねらいとし、自己の課題を達成したり、競争したりする運動。

自己の目標を達成するための技能を高め、記録の向上の喜びや競泳の楽しさを味わうことができるようにすることが大切。

○球技

ボールなどを媒介にして集団的技能、個人的技能を発揮し、集団対集団あるいは個人対個人で攻防を展開し、得点を取り合って勝敗を競うことをねらいとする運動。

球技では、技能の習熟程度に応じた作戦を立てて勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わうことができるようにすることが大切。

○ダンス

自己の感情や考え方を全身の動きで美しく表現したり、伝承されてきた踊りを仲間と踊ったりする運動で、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりすることをねらいとしている。

イメージにふさわしい表現の仕方を工夫して美しい作品を創作し、感じを込めて踊ることができるようにすることが大切。

体育実技（3学年）

学習目標

グループ学習を通して、リーダーとしての資質や能力を身につけ、仲間と協力しながら企画・運営し、主体的な活動ができる態度を養う。運動技能を高め、強健な心身の発達を促すとともに、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を育てる。

3学年体育年間授業計画

科目	保健体育	履修	必修	学年	3	単位	3単位
講座名	体育	担当	未定				
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 水泳：5月から7月まで、温水プールで行う。 3年生の目標は、100M個人メドレーの完泳。 選択種目：各選択種目の特性を考え、自分達で企画・運営ができるようにする。 						
月	学習の単元	学習の内容					
一学期	4	男女 オリエンテーション 体ほぐし・体づくり・体育理論	三田高校での体育実技の予定、選択種目決め、実施方法について理解する。 柔軟体操や理論について行う。				
	5	男子：水泳（4月から7月）、 ハンドボール・バドミントン	100M個人メドレーのタイム計測。 球技は基本動作を確認しながらゲームを中心として行う。				
	6	女子：水泳（4月から7月）、 サッカー・バドミントン					
	7	男女混合選択（キックベース・ バレーボール・卓球・テニス）					
時間	36						
二学期	9	男子：バスケットボール 男子選択（サッカー・テニス）	自分たちで企画運営をしながらゲームを中心として行う。				
	10	女子：バスケットボール 女子選択（ソフトボール・テニス）	自分たちで企画運営をしながらゲームを中心として行う。				
	11	男女混合選択（アルティメット・ バレーボール・卓球・テニス）	自分たちで企画運営をしながらゲームを中心として行う。				
時間	42						
三学期	1	特別時間割					
	2						
	3						
時間							
評価の方法	各種目の記録や習得度・授業態度・欠席・見学等を考慮して総合的に評価する。						
講習	申し出た生徒に対して行う。						

体づくり運動

○歴史

「体づくり運動」は、1999年（平成11年）、高等学校学習指導要領が改訂された際に、『体操』から「体づくり運動」へと名称が変更された。

体操は、古代ギリシャや紀元前の中国で行われていた身体の鍛錬、健康法、養生法などにその起源をさかのぼることができる。今日的な意味では、18世紀以降にドイツやスウェーデン、デンマークなどで教育や軍隊のために取り入れられたギムナスティック（近代体育の父・グーツムーツ氏が命名。語源は古代ギリシャのギムナスティケ）を起点として考えられる。

○日本への普及

江戸時代に活躍した儒学・医者であった貝原益軒が書した「養生訓」に運動の必要性が記載されている。体操という名称は幕末から明治初年に使われるようになった。

1868年（明治元年）にはドイツの体操が軍隊に取り入れられ、1878年（明治11年）にはアメリカ人のリーランド氏がヨーロッパで台頭してきた体操を日本の学校体育の現場へ伝えた。

1924年（大正13年）から1943年（昭和13年）にかけて行われた明治神宮競技大会（国民体育大会の前身）では集団体操が盛んに行われていた。「ラジオ体操」は、1928年（昭和3年）から開始された。

その後、学校現場での体操は「体づくり運動」と名称を変更したが、健康志向の高まりとともに、家庭内での実施や体操クラブとして子どもから高齢者まで幅広く実施されている。

○特性

体づくり運動は、いつでも・どこでも・だれでもできる運動であり、「器具や用具を用いない運動」と「器具や用具を用いる運動」に大別できる。他者と勝ち負けを競うものではなく、各自のライフスタイルに合わせて、心と体をほぐしたり、よく動ける体を獲得したり、体力を高めたりする運動。

○体づくり運動の学習

□目的

- ①心と体の関係に気づいたり、体の調子を整えたり、仲間と交流したりする運動。
- ②柔軟性を高める運動。
- ③持久力を高める運動。
- ④筋力を高める運動。
- ⑤調整力を高める運動。

□ねらい

- ①運動不足を解消する。
- ②スポーツのウォームアップに活用する。
- ③スタミナをつける。
- ④用具を用いてスポーツに必要な体力要素を高める。
- ⑤運動を通じて仲間と交流を深める。

○ルールを理解しゲームに臨む

3年生になると、選択授業が多く、ゲーム中心となることが多くなる。怪我の防止やルールを知ることによってその種目の運動特性もよくわかるようになり、チームの作戦も立てやすくなり、内容の濃い、また、高度な技能の習得にもつながります。副読本のステップアップ高校スポーツをよく読んで授業に臨んで下さい。

芸術科

芸術科学習指導計画

教科の学習目標

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

1年生では、音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰのいずれかを必ず履修する。

3年生は自由選択科目として、ソルフェージュ演習（音楽科）のみ開講する。

講座名	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
音楽Ⅰ	1	必選	2	MOUSAI （教育芸術社）	
美術Ⅰ	1	必選	2	高校生の美術Ⅰ （日本文教出版）	
書道Ⅰ	1	必選	2	書Ⅰ （光村図書）	高校硬筆の練習 （教育出版）
音楽Ⅰ	3	自選	2	高校生の音楽Ⅰ （教育芸術社）	

芸術を学ぶにあたって

○教科「芸術」で身につけて欲しいこと

芸術の授業で学んだ内容は、進学の際に直接関係ないと感じたとしても、ものの見方や考え方の幅を広げていく上で不可欠な分野であり、生涯にわたって芸術を愛好する感性や人間性を身につけてほしいと考えています。

○授業の受け方

芸術Ⅰの授業は、音楽・美術・書道の中から1科目選択しますが、選択理由は各々異なるとはいえ、自ら選んだその科目さえも決して得意とは言えない人から卒業後も専門的に学びたい人まで様々だと思います。そのような中でも時に自分自身と向き合って、集中しながら、向上心を持った取り組みを期待します。

○展覧会・音楽会に出かけましょう！

教室で受ける授業は、きっかけでしかありません。音楽であれば、クラシックの演奏会・アーティストのコンサート、ミュージカル鑑賞など、また美術・書道であれば、美術館や博物館、各種イベント、町の建造物や施設に溢れるデザイン・映画など、すばらしい芸術作品にたくさん触れてください。そこから受けた刺激は、授業では計り知れない影響を与えてくれるはずです。ぜひ時間をつくって展覧会や音楽会に足を運んでほしいと願っています。

科目名 音楽 I
年間授業計画

科目	音楽 I	履修	必選	学年	1	単位	2 単位
講座名	音楽 I	担当	井上 雅文				
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	楽典に関する理解を深め、歌唱・器楽分野の基礎的・基本的な演奏法を理解しながら、正しい発声や姿勢だけでなく、高度な演奏技能を身に付けられるようにする。	・音楽の美しさを味わい、演奏しながら表現を工夫できるようにする。 ・作品の背景や内容、音楽的特徴を捉え、言葉や音で表現できるようにする。	音楽の諸要素を感じ取り、言葉や演奏で表現しようとする態度、高度な技能習得に取り組もうとする態度を養う。				
評価規準	・楽典に関する理解を深めることができている。 ・歌唱・器楽分野の基礎的・基本的な演奏法を理解している。 ・正しい発声や姿勢だけでなく高度な演奏技能を身に付けられている。	・音楽の美しさを味わい、演奏しながら表現を工夫できている。 作品の背景や内容、音楽的特徴を音楽的に捉え、言葉や音で表現できている。	・音楽の諸要素を感じ取って、言葉や演奏で表現しようとしている。 ・高度な技能習得に取り組もうとしている。				
評価方法	行動観察 小テスト 実技テスト	行動観察 ワークシート 実技テスト	行動観察 振り返りシート 小テスト				
月	学習の単元	学習の内容					
一学期 時間	4	学習について (歌唱) 発声法 日本語による歌曲 ミュージカルナンバー	授業時の注意事項や年間計画を理解する。 発声時における正しい体の使い方や呼吸法を身につける。 日本語の特徴を理解し、その美しさを歌唱により表現する。 ミュージカルの場면을イメージし、表現を工夫してのびやかに歌う。 外国語の発音や内容を理解し、正しい発声法を習得する。				
	5						
	6	(器楽) 箏曲	箏の構造と基本的な演奏法を身につけ、易しい楽曲を演奏できるようになる。 正確にリズムを読みとり、他との調和をイメージしながら演奏する。 合奏の難しさを把握し、他パートとの聴き合いを大切にして演奏精度を上げる。				
二学期 時間	24	7	クラッピングカルテット				
	9	(歌唱) 日本歌曲 イタリア歌曲 混声四部合唱	正しい発声と美しい発音で歌唱する。 曲種に応じた表現を工夫する。 イタリア語の発音の特徴を把握する。 作品の内容に合った歌唱表現について考える。				
	10						
28	11	(器楽) 箏曲	1 学期の内容を発展させ、箏の様々な奏法を用いて楽曲演奏できるようにする。 正確なリズムと速度で、16小節程度の課題に取り組む。				
	12	リズム打ち					
三学期 時間	1	(器楽) ・ブームワッカーアンサンブル	グループでメンバーや役割を決め、発表に向けて主体的に活動に取り組む。				
	2	(歌唱) 独唱曲 混声四部合唱	歌唱法と表現方法を考えながら、歌唱できるようにする。				
	18	3	1年のまとめとして、表現の工夫も加えて通奏する。				
講習							

音楽の学び方

○学習内容について

高等学校学習指導要領で示される「音楽Ⅰ」は、「表現」と「鑑賞」の2分野に分けられ、さらに「表現」は「歌唱・器楽・創作」に細分されています。週1回2時間の授業時間において、それら全てを網羅することはなかなか容易なことではありませんので、必然的に各学校・各担当者の重点の置き方によって、様々な授業内容が展開されます。

本校の音楽Ⅰでは、主に歌唱及び器楽を扱い、日本語による作品だけでなく、外国語（英語・イタリア語・ドイツ語）の歌曲にも取り組み、発音や詩の理解、発声法、表現法について学び、独唱できる技能を身につけます。

さらに歌唱以外の活動として、今年度は箏やリズムに関する活動を行います。中学校で箏や三味線に触れたことがある人も多いと思いますが、箏曲を演奏できるようにして、我が国の伝統文化に親しみます。4～5月に各受講者の指に合わせた箏爪を購入してもらいます。また手拍子（クラッピング）やひざ打ちなどの活動では、リズムを正確に読みとり体で表現する力をつけ、クラッピングではアンサンブルにも取り組みます。正しいリズム感覚を身につけることによって、歌唱力や楽器演奏力の向上だけでなく、音楽以外の生活や仕事においても役立てられるのは言うまでもありません。そしてアンサンブルでは、他の受講者との合わせにおいて速度感覚や拍節感の違いによる課題に気づき、グループ内での学び合いを大切にして活動してください。

○学習上の留意点

音楽の学習の大半は歌唱と器楽に関する活動です。音楽は一人では成り立ちません。一緒に演奏する仲間や聴いてくれる人がいて、「ひとつの音楽」が存在します。

一年間、ともに受講する仲間と常に協力して取り組んでください。読譜が苦手な人は、読める人を頼りにしながら、ぜひ読めるようになりましょう。歌が得意な人は、積極的に歌唱して周囲をリードし、講座全体で伸びやかに歌える教室空間にしていきましょう。苦手な分野がある人も、限られた時間の中ですが、少しでも克服できるように、常に前向きに取り組みましょう。

科目名 美術 I
年間授業計画

科目	美術 I	履修	必選	学年	1	単位	2 単位
講座名	美術 I	担当	長雄 新				
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】		
目標	基礎的な技法や制作過程の習得を通し、造形的な見方・考え方を深める。		主題性のある表現を追求し、また、発想し構想したことを鑑賞に生かす。		問題解決に結びつく視点や考え方を考察し、学習に主体的に取り組む。		
評価基準	形の特徴を捉えた観察表現、テーマを捉えた平面構成やポスター制作、特性を理解した切り絵表現が制作されていること。		アイデアスケッチや完成に至る過程に、発想の自発性や集中力、研究的な活動が認められること。		制作の全体を振り返ることで考察を深め、評価・改善が認められること。		
評価方法	学習状況（発想の自発性、研究心、集中度）および提出状況（完成作品）		学習状況（発想の自発性、研究心、集中度）および提出状況（アイデアスケッチや中間提出）		振り返りシートの提出		
月	学習の単元		学習の内容				
一 学 期	4	(鑑賞) オリエンテーション (表現・鑑賞・絵画)	学習のあり方と目標について 表現の意図と構図 物体の構造や形の特徴を観察し、鉛筆の線やトーンの変化で表現する。 美の秩序と色彩調和 観察表現したモチーフを画面に配置し、配色計画に基づき着彩表現する。 一学期の学習を振り返る。				
	5	自然物や人工物の観察表現					
	6	(表現・鑑賞・デザイン) 平面構成制作					
	7	(鑑賞) まとめ					
時間	24						
二 学 期	9	(表現・鑑賞・絵画) 鳥の観察表現	表現の意図と構図 鳥の骨格を理解し、形態・動静・質感を鉛筆で表現し、混色と重色により着彩（淡彩画）表現する。 西洋と日本の美術文化 時代・作者・技法について知識を深め、作品を鑑賞する。 コピー文とレタリング テーマを捉えるコピー文と伝えたい場面のアイデアスケッチを基に、ポスターでメッセージを表現する。 二学期の学習を振り返る。				
	10	(鑑賞) 名画の鑑賞					
	11	(表現・鑑賞・デザイン) 国際理解ポスター制作					
	12	(鑑賞) まとめ					
時間	28						
三 学 期	1	(表現・鑑賞・絵画) 切り絵制作	線と面による構成 「身近な生活から」をテーマに人物と背景をアイデアスケッチし、切り絵で表現する。 一年間の学習を振り返る。				
	2						
	3	(鑑賞) まとめ					
	時間	18					
講習	制作の間に合わない生徒には、適宜、放課後の補講を設定する。						

美術の学び方

○学習内容

最近、芸術関係の仕事が脚光を浴びているようです。特に生活美術、応用美術面での、デザインという名のつく職業です。服飾デザイン、工芸デザイン、インテリアデザイン、コンピューターグラフィックデザインなど、多種多様に専門化されています。若い人達があこがれる花形の職業となっているようです。本校の美術の学習は、将来のエキスパートを育てるための予備学習ではありませんが、生徒の美的感性に刺激を与えて、自分の適性の発見に役立つように、授業は段階的に進めていきます。自然物や人工物を描写してその仕組みを観察したり、表現技法を研究すると同時に観賞する力も養います。高校は、それぞれ設備環境が異なるので、画一的な「美術」というものではありません。油絵に重点を置くところ、彫刻などの立体造形に重点を置くところ等、多様です。本校では、基本学習に重点を置き、絵画、デザインの制作を中心におこないます。

本校では毎年、美術関係への進学希望者がいます。大学や専門学校を卒業して、美術教師、写真、TV演出、美術印刷等の仕事で活躍している先輩もいます。将来、専門家にならなくても、一般的な絵の表現力、鑑賞能力、美術全般への理解力を美術Iで身に付けて欲しいと願っています。美術で必要な用具については、1年生の最初の授業で説明いたします。準備はそれからでも間に合います。特別に高価な品を買い揃える必要はありません。

美術の学習は、自分の目の前にあるモデルを、用具を使って表現する仕事ですから、作業のプロセス、完成までの時間配分など、計画的な思考態度がいつも要求されます。精神を集中してまじめに仕事に取り組む、芸術する態度の中から未知の可能性が芽生えることを、一人でも多くの生徒に体験して欲しいと願っています。

○学び方

美術Iは、中学校美術の基礎の上に立ち、さらに、表現力や観賞力を身に付けていく教科目です。単元ごとの学習では、教科書の技法資料やデジタルコンテンツ（QRコード）を活用し、基礎事項の確認をおこないながら進めていきます。

- ・**人工物や自然物の観察表現**— 1学期のはじめは、石膏のできた幾何形体を描きます。ノートをとるような姿勢と指先のストロークでは描くことはできません。「デッサン」という方法を身に付けます。
- ・**平面構成・ポスター・切り絵**— ともに、予め決められたテーマから構想して表現する課題です。平面構成やポスターの着彩する制作では、混色をおこなうと共に配色を工夫することが大切です。ポスターでは、イラストと併せてコピー文をレタリングします。最近は、「東京オリンピック」、「ニューノーマル」をテーマに取り上げています。切り絵は、人物と背景を構成するスケッチから始め、黒ラシャ紙にスケッチを転写したのち、線と面の効果を確認しながらカット作業を進めていきます。
- ・**鑑賞**— 主に教科書を使用し、表現題材に関連する鑑賞やテーマ（浮世絵版画の魅力等）に基づく鑑賞を行います。後者の例としては、「浮世絵史」や「比較鑑賞—北斎と広重」などを挙げる事ができます。

○諸注意

- ・定められた用具（ポスターカラー絵具セット、スケッチブックF6、鉛筆等）を持参してください。
※購入する用具の詳細は、初回の授業で説明します。（スケッチブックのみメーカーと型番を指定）
- ・授業が中心です。（正当な理由のない自宅制作は、評価対象外になります。）
- ・他者の迷惑にならない、協力的な姿勢を常に考えて行動してください。

科目名 書道 I

年間授業計画

科目	書道 I	履修	必選	学年	1	単位	2 単位
講座名	書道 I	担当	山崎 真由美				
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<ul style="list-style-type: none"> 書の実現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に書の幅広い活動に取り組む、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う 				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 書の実現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している 	<ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 提出作品の内容 ワークシートの記録 学習過程の記録 学習活動の様子 	<ul style="list-style-type: none"> 提出作品の内容 ワークシートの記録 学習過程の記録 学習活動の様子 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への参加状況や様子 課題の提出状況 作品・ワークシート・学習過程の記録の取り組み状況 				
月	学習の単元		学習の内容				
一学期 時間	4	<ul style="list-style-type: none"> 導入 漢字の書 	<ul style="list-style-type: none"> 用具・用材について 書の美について 姿勢・執筆法 楷書…古典の臨書、鑑賞 行書…特徴、用筆法、字形のとり方 				
	5						
	6						
24	7						
二学期 時間	9	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書 仮名の書 	<ul style="list-style-type: none"> 行書…創作 隷書…特徴、用筆法、字形のとり方、創作 仮名の成立 仮名の筆づかい 連綿と変体仮名 古典の臨書・鑑賞 散らし書き 				
	10						
	11						
28	12						
三学期 時間	1	<ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じりの書 	<ul style="list-style-type: none"> 仮名と漢字の調和 創作 落款と篆刻 鑑賞 				
	2						
	18						
3							
講習	必要に応じて補講を行う。						

書道の学び方

○学習内容

まずは、筆の扱い方に慣れ、書の基本を身に付けることから始めます。

書道用具・用材についての歴史・製法・性質・扱い方を知り、楷書・行書・隸書・仮名を古典（歴史的に評価の定まった書跡）の臨書・鑑賞を通して学習していきます。

その後、自分の選んだ言葉や詩文を題材にし、自分の思いを表現する作品を作ります。

また、日常生活に生かせるよう、硬筆（ペン字）も毛筆に関連させて学習します。

○学習の方法

自分が思う（考える）通りに文字を表現するためには、目標を持って学習する必要があります。そのためには、「書く」「見る」「考える」という3つの練習が不可欠です。とにかく、毎時間毎時間の授業を大切に、3つの練習をたくさんしましょう。

完成度の高い作品が提出できるよう、主体的・意欲的に学習に取り組みましょう。限られた時間の中でも、効率よく練習することで、必ず上達します。

様々な用筆・運筆を学習することにより、表現できる線質や趣の幅が広がります。単なる新しい技法の習得に終わることなく、自分の新しい表現力として積極的に活用していきましょう。

○学習上の留意点

(1) 良い用具を選び、しっかり手入れをする。

- ・ 墨で根元から穂先までカチカチになってしまった筆
- ・ ほとんど洗ったことがなく、墨がすれないような硯
- ・ 折りジワが細かくついて平らにならない下敷き
- ・ 用具の箱を開けたらカビだらけ などなど

これでは、いくら能力があっても、うまく書くことはできません。用具にも寿命がありますから、使用できなくなった用具は無理に使い続けるのをやめて新しく用意しましょう。その際には、できるだけ書道専門店で買うことをお勧めします。100円ショップでも買うことはできますが、寿命の短いものが多く、結局何度も買い換えることになる可能性が高いです。

良い用具を用意すれば、おのずと手入れにも身が入り、長く使うことができます。用具のせいでうまくこころ書けないとしたら、もったいないと思いませんか？良い用具をしっかり手入れし、いつも使いやすい状態にしておきましょう。

(2) 1つの課題に対して、繰り返し練習する。

「うまく書けない」「どうせ無理」と諦める前に、時間が許すぎりぎりまで練習をしましょう。でも、ただ何枚も書けばよいのではなく、自分で前に書いた作品と比較しながら、よく考えて書くことが必要です。

同じことを繰り返し、繰り返し練習することは辛いことですが、それを成し遂げてこそ、初めて納得のいく1つの作品が完成するものなのです。

(1) と (2) を実行するだけでも、作品の出来ばえが比較にならないほど良くなります。

自分の書く文字に、自信が持てるよう頑張りましょう。

外国語科

外国語科学習指導計画

教科の学習目標

将来社会において必要とされる英語を聞く、話す、読む、書く、の4つの技能をバランスよく身に付けることを目標とする。

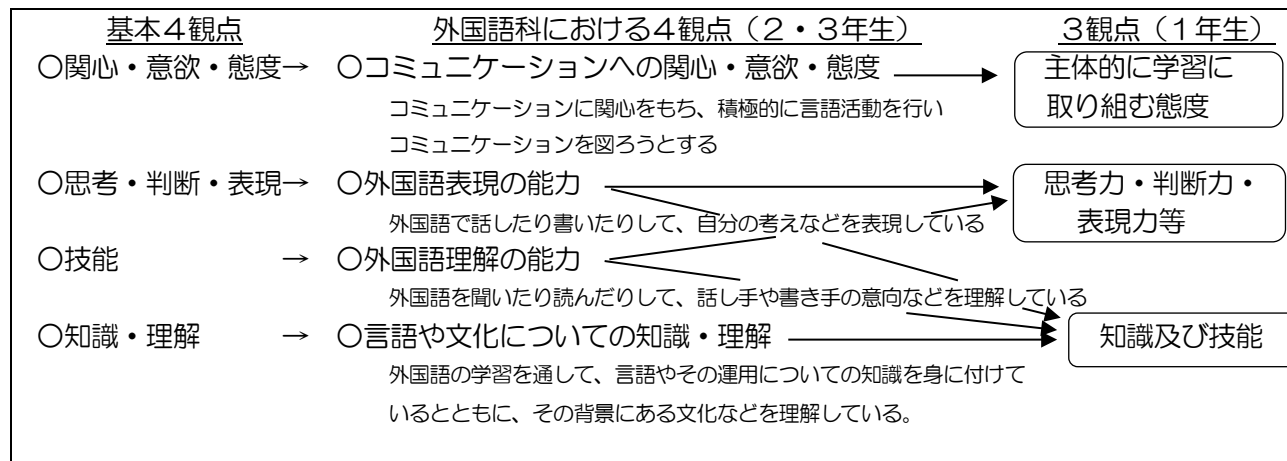
大学受験で英語は大きなウエイトを占める教科だが、本校の英語教育は難関大学突破に必要な英語力ばかりでなく、大学入学後、ひいては社会に出たあと役立つ英語力の土台をつくることを目指している。

講座名	学年	履修	単位	使用教科書 (出版社)	主要補助教材 (出版社)
英語コミュニケーションⅠ	1	共通	3	CROWN English Communication I (三省堂)	CROWN English Communication I 予習サブノート、CROWN English Communication I WORKBOOK Advanced, CROWN English Communication I (以上三省堂)英単語ターゲット1200、英単語ターゲット1900 (旺文社)
論理・表現Ⅰ	1	共通	3	Vision Quest English Logic and Expression I (啓林館)	Vision Quest 総合英語 Ultimate、Vision Quest WORKBOOK Advanced (以上啓林館)、英語の正しい発音の仕方 基礎編 (研究社)、Listening Essentials 1.5 (啓隆社)、SDG s 英語長文 Core (三省堂)
コミュニケーション英語Ⅱ	2	共通	4	CROWN English Communication II New Edition (三省堂)	CROWN English Communication II 予習サブノート、CROWN English Communication II WORKBOOK Advanced、CROWN English Communication II リスニング CD (以上三省堂)、WIDE ANGLE 5 訂版 book3 (美誠社)、Cutting Edge Green (エミル出版)、英文速読10分テスト Rapid ReadingLevel12(美誠社)、英単語ターゲット1200、英単語ターゲット1900 (旺文社)、
英語表現Ⅱ	2	共通	3	Revised Vision Quest English Expression II (啓林館)	Vision Quest 総合英語 Ultimate、Vision Quest II Ace WORKBOOK (以上啓林館)、Welcome to Tokyo Intermediate、SDG s 英語長文 Core (三省堂)、ゲートウェイ英作文 (文英堂)、英文法・語法 Vintage (い いずな書店)、Listening Essentials 2 (啓隆社)
コミュニケーション英語Ⅲ	3	共通	4	SKILLFUL English Communication III (啓林館)	SKILLFUL English Communication III 生徒用 CD(啓林館)、Cutting Edge (エミール出版)、システム英単語 (駿台)、共通テストドリル英語リーディング 10 minutes [Z会]、Welcome to Tokyo Intermediate
英語表現Ⅱ	3	共通	2	Vision Quest English Expression II ACE (啓林館)	Write to the Point (数研出版) 共通テストドリル英語リスニング 10 min. (Z会)、CLOVER 英文法・語法ランダム演習—入試発展(数研) Ultimate 総合英語 (啓林館) NextStage(桐原書店)
総合英語 (発展)	3	必選/ 自選	2	CROWN English Communication III (三省堂)	現代を探る (い いずな書店)
総合英語 (標準)	3	自選	2	CROWN English Communication III (三省堂)	現代を読む (い いずな書店)

英語を学ぶにあたって

英語の学習は、日々の授業への取り組みはもちろんのこと、4つの技能「読む・書く・話す・聞く」の習得が欠かせません。どの観点においてもバランスよく学習し、生きて使える英語の力をつけていきましょう。学び方は各科目のページを参照してください。英語4技能外部検定試験受験も積極的にチャレンジしましょう。

評価について 観点別に評価を行っています。



☆三田高校の英語における主な評価対象（2・3年生）※1年生は年間授業計画に併記

- コミュニケーションへの関心・意欲・態度→ 学習への態度・提出物・活動の取り組みなど
- 外国語表現の能力→ 定期考査・パフォーマンステスト（スピーチ、プレゼンテーション、インタビュー等）・ディベート・音声リーディング・英作文など
- 外国語理解の能力→ 定期考査・速読・リスニング課題など
- 言語や文化についての知識・理解→ 定期考査・単語テストなど



☆三田高校の英語における観点の割合（2・3年生）※1年生は年間授業計画に併記

※各学年の学習内容に基づき、割合を変えてあります。

		関・意・態	表現	理解	知識・理解
コミュニケーション英語	2学年	25%	25%	25%	25%
	3学年	10%	30%	30%	30%
英語表現	2学年	25%	40%	10%	25%
	3学年	10%	40%	20%	30%

多読について ※コミュニケーション英語（英語コミュニケーション）または英語表現（論理・表現）の時間に行います。

📖 Extensive Reading Guide 📖



子供向けの絵本から少し難しめの英語の本をたくさん読み英語を訳さずに読むクセをつけま

す。
三原則！ ①辞書を使わずに読む ②わからないところは飛ばす！考えない！ ③つまらなかったらやめる

★**リスニングが伸びる** 多読をすると、頭の中で訳さずに英語を理解するようになるので、必然的にリスニングの力が伸びます。多読を数年続けると、英語のドラマや映画も英語のまま楽しめるようになります。

★**スピーキング・ライティングが楽になる** 簡単な英語で書かれた本をたくさん読んでいると、普段使う表現が無意識のうちに体にしみこんでいきます。自然と英語が出てくるようになります。

★**長文読解が楽になる** 実力テストや模試の成績も上がります。多読で英語を英語のまま読むことに慣れれば、全体の得点もアップします。

第二外国語（自由選択）

第二外国語「中国語」「ドイツ語」「フランス語」の3教科が1年時の自由選択科目として設定されている。それぞれの講座は週1回2時間連続で、日本人の教員とネイティブの外国人教員とのティームティーチングで授業を行う。楽しく実践的に学びながらそれぞれの言語の基礎を身につけていく。ただし、単なる会話の授業ではない。

放課後の時間に設定されている講座なので大変な面もあるが、今までに受講した生徒は皆意欲的に取り組んでいる。また第二外国語を学ぶことによって語学全般に対する見識が深まり、視野が広がる。結果的に英語やその他の教科の向上にもつながることが多い。

第二外国語を受講する生徒にとって大切なのは、あくまで意欲である。ぜひ積極的な態度とチャレンジ精神を持って、主体的・前向きに努力して欲しい。また、これは英語の学習についても同じことが言えるが、新しい言語を学ぶ際には日本語に引きずられないことが肝要である。日本語的な感覚にとらわれるよりも、新しいセンスを身につけるつもりで学んでほしい。発音についても全く新しい母音・子音があるので、日本語風に発音せずに、聞いたとおりの音を忠実に真似して発音してみるようにしよう。きれいな発音ができるようになると学習が楽しくなり、一気にその語学が上達するであろう。



科目	中国語		履修	自由選択		学年	1	単位	2 単位
講座名	中国語		担当	木村 淳・陸 樹芳					
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	中国語学習の基礎となる「簡体字」（簡略化された漢字）と「ピンイン」（音声を表記するローマ字）を習得するとともに、初歩的な文法事項を理解できるようにする。		文の構造を把握し、前後の文脈もふまえて中国語の文章を理解し、簡単な中国語の会話と作文ができるようにする。あわせてインターネット上の情報を正しく活用できる力を養う。		中国語の読解や会話・作文に積極的に取り組む態度、他者に学ぼうとする態度、文化的背景にも理解を深めようとする態度を養う。				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・簡体字が正しく書けている。 ・ピンインのルールを正しく理解し、発音ができている。 ・基本的な中国語の文法事項を理解できている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・文の構造を把握し、前後の文脈もふまえて中国語の文章が理解できている。 ・簡単な中国語の会話と作文ができている。 ・中国語の文章の内容読解や会話・作文をする際にインターネット上の情報を正しく活用できている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・中国語の読解や会話・作文に積極的に取り組もうとしている。 ・会話練習などの際、ALTのアドバイスを取り入れるだけでなく、他の受講生の発表からも学ぼうとしている。 ・中国の文化についても理解を深めようとしている。 				
評価方法	行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） <ul style="list-style-type: none"> ・学習への取組の様子、発言の内容、ワークシートの記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 		行動観察、ワークシート、及び定期考査（単元テスト） <ul style="list-style-type: none"> ・学習への取組の様子、発言の内容などに基づいて評価する。 ・ワークシートを回収し、その内容に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 		行動観察、ワークシート、小テスト <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述内容に基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 				
月	学習の単元		学習の内容						
一学期	4	発音	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語の特徴 ・四声／声調の変化 ・単母音／子音／複合母音／鼻母音 ・ピンインのきまり 						
	5								
時間	6	第1課 “你是中国人吗？”	<ul style="list-style-type: none"> ・“是” 述語になる文のきまり ・“吗” を使った疑問文のきまり ・名前の言い方 ・簡単なあいさつ 						
	7								
20		1. 人称代名詞 2. “是” の文							
二学期	9	第2課 “这是什么？”	<ul style="list-style-type: none"> ・指示代名詞“这”“那”“哪”のきまり ・疑問詞疑問文のきまり ・所有を表す“的”の用法 ・副詞“不”“也”の用法 						
時間		1. 指示代名詞 (1) 2. 疑問詞疑問文 3. “的”の用法 (1) 4. 副詞							
30	10	第3課 “你去哪儿？”	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞が述語になる文のきまり ・動詞“有”の「所有」の用法 ・省略疑問文を作る“呢”の用法 						
		1. 動詞の文 2. 「所有」を表わす“有” 3. 省略疑問の“呢”							
	11	第4課 “这个包多少钱？”	<ul style="list-style-type: none"> ・量詞（助数詞）の用法 						

	12	1. 量詞 2. 指示代名詞 (2) 3. 形容詞の文 4. “几”と“多少”	・形容詞が述語になる文のきまり ・疑問詞“几”と“多少”の用法
三 学 期	1	第5課 “你下午有事吗?”	・数字のきまり ・名詞(数詞)が述語になる文のきまり ・日付・曜日・時刻の表現 ・「動作の時点」のきまり
	2	1. 数字 2. 日付・時刻を表わす語 3. 「動作の時点」を言う表現	
時間	20	3 総復習	・文法事項のまとめ
講習		なし	

中国語の学び方

発音の学び方

- ・中国語の入門段階では発音の学習を中心とします。特に音声を表記するローマ字であるピンインのきまりを理解することが最大の課題です。中国語ではアクセントを間違えるとまったく意味が変わってしまいます。たとえば「コップはどこにありますか」と言いたいのに、アクセントを間違えてしまうと「布団はどこにありますか」になってしまうこともあります。そのため入門期では発音のきまりを理解することがとても大切なのです。
- ・ピンインに慣れるには、まず繰り返し音読することです。教室ではALTの先生について大きな声で発音をしてください。指名されて音読する時も間違いをおそれずに発音してください。
- ・それから、ピンインを実際に書いて視覚的に覚えることもおすすめします。付属のCDを聞いてピンインを書き取ってみることも一つの方法です。ピンインは覚えるまでに一定の時間がかかりますが、練習を繰り返していくと初めて見る単語のピンインでも読めるようになっていきます。
- ・中国語の発音は難しそうだと感じるかもしれませんが、音の豊かさ也是中国語の魅力の一つです。中国語の面白さに触れるつもりで発音を学んでください。

簡体字・単語の学び方

- ・簡体字は日本語の常用漢字と書き方が違うものだけを覚えれば良いので難しくありません。
- ・単語は同じ漢字を使っているけど日本語と意味の異なるものに注意して覚えてください。

文法の学び方

- ・一年という期間に限定すると、中国語は語尾の活用がないので活用のある外国語よりも多くの表現を学ぶことができます。
- ・中国語の文法学習のポイントは語順を覚えることです。中国語は語尾の活用がないかわりにアクセントや語順によってそれぞれの言葉の意味が決まるからです。
- ・学び始めたばかりの頃は、中国語の語順は英語のようだという印象を持つかもしれませんが、しかし中国語は漢字や単語だけではなく、文法にも日本語に似ている所がたくさんあります。そのため日本語と比べて中国語の語順を理解することが有効です。
- ・日本語と中国語との比較を続けていくうちに、今まで意識していなかった日本語の特徴にも気づくはずです。そうした言葉に関するだけでなく、文化的な背景や中国の人々の価値観などについても、みなさんが中国語を学ぶことでたくさんの発見をすることを願っています。

科目	ドイツ語		履修	自由選択		学年	1	単位	2	
講座名	ドイツ語		担当	ルートウィッヒ バールケ ・ 伊東 昌治						
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】					
目標	ドイツ語の発音やイントネーションを身に付け、英語との共通点と相違点を意識しながらドイツ語文法の基本的な特徴を掴み、基礎級の語彙を覚える。		・自分の思想を表現する時に現れる語学上の問題を認識する。 ・ドイツ語に存在するルールを独自に発見してそして適確に応用する。 ・日常生活の場面で適切な表現で自分の意志を表現する。		基礎級の会話が出来る様に成る為に必要な語彙を暗記し、文法のルールを覚え、授業内容を深める為の宿題に真面目に取り組み、主体的、自律的にドイツ語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。					
評価規準	情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。		コミュニケーションの相手に自分の考えをよく理解してもらえるように、日常的な話題についての情報や考えを伝える。		自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、日常的な話題について工夫して伝え合おうとしている。					
評価方法	授業中の発言・行動観察・小テスト 学習への取り組みの様子、発言の内容などに基づいて評価する 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する、		授業中の発言・行動観察 小テスト 学習への取り組みの様子、発言の内容などに基づいて評価する。 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する、		生徒の発達の段階や一人ひとりの個を十分に考慮しながら、授業中の発言、ペア・グループワークの時のパートナーとの共同作業、メモを取る事、集中的に内容に取り組み、授業が進む様に貢献する態度、授業時間以外の学習態度を観察して評価する					
月	学習の単元		学習の内容							
一 学 期	4	持ち込みプリント 第0課7頁～9頁 第1課10頁～13頁	ドイツ語圏、ドイツ語の世界の中の地位；平叙文、補足疑問文、決定疑問文 アルファベットと発音、数（10迄） 挨拶 動詞の現在形人称語尾変化（単数のみ） 紹介、数（11から100迄）、性別による名詞の接尾語の有無 動詞の現在形人称語尾変化（複数）、sein動詞の特殊変化 持ち物について述べる、名詞の性、冠詞（定・不定・否定） 名詞の複数形のタイプ 総合復習及び試験							
	5	第1課14頁～15頁 第2課16頁～19頁								
	時間	6								第2課20頁～21頁 第3課22頁～25頁
	1 8	7								第3課26頁～27頁 持ち込みプリント
二 学 期	9	第4課28頁～29頁 第4課30頁～31頁 第4課32頁～33頁	食べ物を買う 名詞と冠詞の格変化（4格） haben, möchten, nehmen動詞の変化 家族構成；所有冠詞 人称代名詞の格変化 好みを表現する事、a→ä及びe→i(e)タイプの不規則動詞 命令形 衣類、名詞・人称代名詞の三格 前置詞の格支配 総合復習及び試験							
	時間	1 0								第5課34頁～37頁 第5課38頁～39頁
	2 0	1 1								第6課40頁～43頁 第6課44頁～45頁
	1 2	第7課46頁～49頁 第7課50頁～51頁 持ち込みプリント								
三 学 期	1	第8課52頁～53頁 第8課54頁～55頁 第8課56頁～57頁	道案内 3 / 4 格支配前置詞 分離動詞 話法助動詞 未来形 再帰代名詞・動詞 従属接続詞と副文構造 総合復習及び試験							
	時間	2								第9課58頁～61頁 第9課62頁～63頁
	1 6	3								第10課64頁～67頁 第10課68頁～69頁 持ち込みプリント

ドイツ語の学び方

語学も、他の事と同様に、効果を上げるには復習が必要である。宿題・復習・予習も必要である。なお、授業中に消極的な態度で講師の説明を聞くだけでなく、提示された内容を直ぐに応用しようと言う意欲が不可欠である。そのため、積極的に問題意識を磨きながら、ドイツ語の特性を発見したり、マスターしようとしたりする態度で授業に臨むことが望ましい。毎回、辞書(オンラインの物も可)を持参する事が望ましい。

科目名 フランス語
年間授業計画

科目	フランス語	履修	自由選択	学年	1	単位	2単位
講座名	フランス語	担当	井形美代子 / ジャック・ペッシュ				
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語で基礎的な4技能（読む、書く、話す、聞く）ができるようにする。 ・フランス語圏の文化や習慣、考え方について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文の構造を把握し、前後の文脈もふまえてフランス語を理解し、簡単な会話と作文ができるようにする。 ・綴り字と発音の関係を理解し、正確に聞き取り正しく発音ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> フランス語の読解や会話、作文、聞き取りに積極的に取り組む態度、他者に学ぼうとする態度、他者と共に学ぼうとする態度、文化的背景にも理解を深めようとする態度を養う。 				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語で基礎的な4技能（読む、書く、話す、聞く）ができている。 ・フランス語圏の文化や習慣、考え方について理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文の構造を把握し、前後の文脈もふまえてフランス語を理解し、簡単な会話と作文ができている。 ・綴り字と発音の関係を理解し、正確に聞き取り正しく発音ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語の読解や会話、作文、聞き取りに積極的に取り組もうとしている。 ・他者に学ぼうとしている、他者と共に学ぼうとしている。 ・文化的背景にも理解を深めようとしている。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） ・学習への取組の様子、発言の内容、ワークシートの記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察、小テスト、及び定期考査（単元テスト） ・学習への取組の様子、発言の内容、ワークシートの記述内容などに基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察、ワークシート、小テスト、グループ発表 ・ワークシートの記述内容に基づいて評価する。 ・小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 ・グループ発表を実施し、その結果に基づいて評価する。 				
月	学習の単元		学習の内容				
一学期	4	Leçon 0- 4	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、数字1-20、フランス語のルール ・自己紹介（国籍・身分・職業） ・パン屋で買い物 ・不定冠詞・定冠詞、提示の表現 ・動詞 être / avoir / 第1群規則動詞（er動詞） ・都市や言語、旅に関する語彙 ・疑問文と答え方 				
	5						
6							
時間	7						
	16						
二学期	9	Leçon 5 - 7	<ul style="list-style-type: none"> ・部分冠詞、形容詞：人について特徴・状態・所有を言う ・食べ物、飲み物、家族、色の表現 ・否定文 ・パリの市場で買い物 ・映画館やカフェに誘う ・フランス語検定5級試験準備 				
	10						
11							
12							
時間	22						
三学期	1	Leçon 8	<ul style="list-style-type: none"> ・レストランやカフェで注文 ・パリの街を散策する、パリの地図を使ってみる ・フランスの地方についてのグループ発表 				
	2						
3							
時間	10						
講習	なし						

フランス語の学び方 — 学習にあたって大切なこと —

フランス語の発音に最初は戸惑うかもしれませんが、フランス語の読み方には規則性がありますので、一定のルールを覚えると、初めて出会う単語も発音できるようになります。授業中は大きな声で発音しましょう。小さい声で発音をしていると、正しく発音をしているのかどうか、こちらには聞こえないので、発音を直すことができません。

科目名 英語コミュニケーションⅠ
年間授業計画

科目	英語コミュニケーションⅠ	履修	必修	学年	1	単位	3単位
講座名	英語コミュニケーションⅠ	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる。 	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。				
評価方法	授業内でのテスト、および定期考査 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートへの取り組み、記述内容などに基づいて評価する。 小テストを実施し、その結果に基づいて評価する。 	授業内でのテスト、ワークシート、および定期考査 <ul style="list-style-type: none"> ワークシートへの取り組み、記述内容などに基づいて評価する。 ノートやワークシート等、レポート等を回収し、その内容に基づいて評価する。 定期考査を実施し、その結果に基づいて評価する。 	振り返りシート、授業内でのテストプレゼン等 <ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートを回収しその記述内容に基づいて評価する。 テストや課題への取り組みに基づいて評価する。 				
月	学習の単元	学習の内容					
一学期 時間	4 Lesson 1 The Blue White Shirt	<ul style="list-style-type: none"> 和製英語について、理解して考えを深める。 					
	5 Lesson 2 Does It Spark Joy?	<ul style="list-style-type: none"> 片づけの専門家・近藤麻理恵さんの生き方や片づけに関する考え方について、理解して考えを深める。 					
	6 Lesson 3 Hatching the Egg of Hope	<ul style="list-style-type: none"> アーティスト・ミヤザキケンスケさんの活動や考え方について、理解して考えを深める。 					
36	7 Lesson 4 Digging into Mystery	<ul style="list-style-type: none"> 縄文時代の人々の暮らしや土器、土偶などについて、理解して考えを深める。 					
一学期 時間	9 Lesson 5 Roots & Shoots	<ul style="list-style-type: none"> 人間と動物の共生や環境保護に関するジェーン・グドール博士の考えについて、理解して考えを深める。 					
	1 Lesson 6 You and Your Smartphone — Who's in Charge?	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンの使用に関するよい点と問題点について、理解して考えを深める。 					
	1 Lesson 7 1 Living in Alaska	<ul style="list-style-type: none"> 写真家・星野道夫さんの自然に対する考え方、アラスカの自然や人々の暮らしについて、理解して考えを深める。 					
42	1 Lesson 8 2 Not So Long Ago	<ul style="list-style-type: none"> 戦争の悲惨さや平和の重要性、写真の持つ力について、理解して考えを深める。 					

三学期	1	Lesson 9 Our Lost Friend	<ul style="list-style-type: none"> ・旧宗主国と旧植民地の間に存在する文化財返還問題について、理解して考えを深める。 ・『ピーナッツ』の世界的人気の理由や作者のチャールズ・M・シュルツさんが考える「人生の成功」について、理解して考えを深める。
	2	Lesson 10 Good Ol' Charlie Brown	
時間	3		
27			
講習	長期休業中に必要に応じて補習・講習を行う		

英語コミュニケーション I の学び方

○読解をベースとする 4 技能の育成

教科書：CROWN English Communication I (三省堂)

副教材：CROWN English Communication I 予習サブノート (三省堂)

CROWN English Communication I WORKBOOK Advanced (三省堂)

CROWN English Communication I abceed for school (三省堂)

英単語ターゲット 1200 (旺文社)

英単語ターゲット 1900 (旺文社)

<学習内容>

英語の授業では、英語学習における 4 技能 5 領域（読む、書く、聞く、話す「発表・やり取り」）を身につけることを目標とし、そのために必要な学習活動をバランス良く行う。グローバル社会においては、英語を通じて情報を的確に理解すること、また自分の考えを英語で適切に表現することが必要となる。1 年のうちから英語のインプットとアウトプットをしっかりと行い、豊かな語学力とコミュニケーション能力を育成することが重要となる。それが結果として、将来の進路実現にも繋がっていく。

1 年生では、英語コミュニケーション I が 3 単位ある。そのうち 2 単位は、JET と日本人教員のチームティーチングを行う。

<目標>

1. 英語コミュニケーション I では、ある程度の長さの英文を、できるだけ速く的確に内容把握し、それを要約して英語または日本語で他者に伝えたり書いたりする力を身に付けることを目標とする。英語表現でも学習する文法・語法の知識を活かし、必要に応じて辞書・参考書を活用しながら、自ら英文を読解する力を身に付けていく。多種多様な学習活動を通じて授業を展開する。
2. 英語話者にきちんと伝わる発音やイントネーションで英語を発話する力を身に付ける。そのために音声教材の活用および音読は必須である。正確な発音を手本に音読することで、英語独特のリズムや発音を身に付け、表現を自分のものとし、自ら英語を話し書く力を育てる。
3. 家庭学習課題と小テスト等を通じ、語彙知識の定着も図る。英語を理解するうえで語彙の知識は不可欠である。わかるだけでなく使える語彙の定着を図る。音声教材も活用しながら声に出して発音し、スペルを書いて覚える習慣をつけることが望ましい。単語の意味を理解した段階で教科書の音読を繰り返すとより効果的である。学習した単語に何度も出会う機会を作ることが記憶の定着に役立つ。
4. 「多読」の時間も確保し、1 年間で 1 万語以上読むことを目標として、英語での読書を楽しみながら十分なインプットを行っていく。なお、これは難解な長い洋書を読むことが目的ではなく、辞書を使わずに英語を英語として読むことを目的としている。

○授業に準備する物

教科書、指示された副教材、ノート（配布するバインダー）、英和辞典

○英語 4 技能外部検定試験

三田高校では英語 4 技能外部検定試験受験を推奨している。

科目名 論理・表現 I
 年間授業計画

科目	論理・表現 I	履修	必修	学年	1	単位	3 単位
講座名	論理・表現 I	担当					
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】			
目標	外国語を用い、やりとり、発表、書くことの三つの領域で必要となる言語に関する特徴やきまりとそれに基づく運用能力を身に付け、発信力を強化することを目標とする。	内容の論理構造や展開を工夫し、基本的な語句や文を用い、日常的话题について、支援を活用しながら情報や考え、気持ちなどを伝達・発表できることを目標とする。		内容を論理的かつ効果的に伝えるために、提示されたモデルを積極的に分析・活用し、かつ聞き手、読み手の理解度を考慮しながら伝達方法を改善できる態度を身に付ける。			
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 表現のモデルに従いパターンを正確に運用できる。 会話、発表、ディスカッション・ディベート等で必要な基本的技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 会話、発表、ディスカッション・ディベート等で、伝えたい内容が十分整理され、まとまっている。 論理展開、表現等が、相手により伝わるように工夫されている。 		<ul style="list-style-type: none"> 発表内容について、モデルで提示された内容にとどまらず、自主的に発展させている。 相手の知識や理解度に合わせ表現など発展的に改善されている。 			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 小テストおよび定期考査の結果 ワークシート、課題等の記述内容 発表原稿等の内容・表記 発表時の言語運用能力 上記の点に基づいて評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 発表原稿および定期考査の結果 発表原稿等の語彙・表現方法、論理展開における工夫 発表時の表現方法 上記の点に基づいて評価する。		<ul style="list-style-type: none"> 回収した振り返りシートの記述内容 発表原稿等の内容の発展性 提示モデルを離れた自主研究 <ul style="list-style-type: none"> 自己探求の程度 上記の点に基づいて評価する。			
月	学習の単元		学習の内容				
			α (2単位分)		β (1単位分)		
一学期	4	(Vision Quest I) Lesson 1 I want to introduce my new friend.	<ul style="list-style-type: none"> 紹介 応答する、理由を述べる／文の種類 学校生活 賛成・反対する、聞き直す／文型と動詞 旅行・観光 激励する・励ます、計画する・予定する／時制 趣味・関心 経験を訪ねる、初めての経験を述べる／完了形 		<ul style="list-style-type: none"> 自分の感想や意見に基づいたスピーチやプレゼンテーションを行う。 クラスメイトのスピーチやプレゼンテーションを適切に評価する。 身近な内容についてネイティブスピーカーの先生とやり取りをする。 		
	5	Lesson 2 How about joining our group?					
時間	6	Lesson 3 I'm planning a day trip this weekend.					
36	7	Lesson 4 Have you ever tried it before?					
二学期	9	Lesson 5 What do you want to do after school?	<ul style="list-style-type: none"> 将来・進路 許可を求める・依頼する、義務・必要を表す、 回想する・自省する／助動詞 日常生活 原因・影響を表す、喜び・驚きを表す／受動態 交流・交通 感謝する、謝罪する、弁解する／不定詞 スポーツ・健康 誘う・申し出る、推薦する／動名詞 メディア・コミュニケーション 描写する、判断の根拠を述べる／分詞 文化・異文化理解 定義する、言い換える、経緯を説明する／関係詞 		<ul style="list-style-type: none"> 自分の感想や意見に基づいたスピーチやプレゼンテーションを行い、それに対する質問に答える。 クラスメイトのスピーチやプレゼンテーションを適切に評価し、質問ができるようにする。 身近な内容についてネイティブスピーカーの先生とやり取りをする。 		
	10	Lesson 6 Did you hear about the new shop?					
	11	Lesson 7 I'm happy to have you with us.					
	12	Lesson 8 What sport do you like playing?					
時間	12	Lesson 9 Digital media has come a long way.					
42		Lesson 10 That's why I decided to go back.					

三 学 期	1	Lesson 11 Which do you prefer, cheaper beans or more expensive ones?	・国際問題 提案する, 賞賛する/比較	
	2	Lesson 12 If I were you, I'd see it as a positive.	・社会問題 助言を求める・助言する, 願望を表す/	
時 間	3			
	27			
講 習	長期休業中に必要に応じて補習・講習を行う			

論理・表現 I の学び方

■論理・表現 I (α) 2単位

○英文構成力・文法力・表現力・リスニング力の育成

教科書: Revised Vision Quest Logic and Expression I Advanced (啓林館)

副教材: Vision Quest 総合英語 Ultimate (啓林館)

Vision Quest WORKBOOK Advanced (啓林館)

Listening Essentials 1.5 (啓隆社)

SDGs 英語長文 Core. (三省堂)

英語の正しい発音の仕方 基礎編 (研究社)

英語表現 I (α) では、英文の文章構造、発音、イントネーション、語彙力など、基礎となる知識・能力を体系的に身に付け、自ら表現していく能力を高めていくことを目標とする。基本的な文法事項を学習しながら、基本例文をほぼ自動的に発話できる状態まで高めることで、英文をすばやく読み、正確に聞き、的確に話し、書く能力を向上させる。また、文法・語彙知識を活用して、ある程度のまとまった英文を書くことを目指す。発音学習とリスニングにおいては「音声変化」を体系的に学ぶとともに、英検・GTEC・TEAP・各種模試などの多様なリスニング問題に対応できる力をつけながら、実際の英会話能力を高める。

文法知識は理解しただけでは不十分であり、自らのコミュニケーション・ツールとして使えるまで体得することが必須である。

○授業に準備するもの

教科書、Vision Quest 総合英語 Ultimate 他指示された参考書、ノート (配布するバインダー)、英和辞典

■論理・表現 I (β) 1単位 (ALT とのティームティーチング)

○コミュニケーション力・表現力の育成

ALT と日本人教員とで少人数の授業を行う。プレゼンテーションやスピーチ、また ALT とのやり取りを通してコミュニケーション能力の伸長を図る。論理・表現 I (α) やコミュニケーション英語 I で得た知識や技能を積極的に使用していく姿勢が望まれる。また、他教科での学びや探求活動での学びが各自のプレゼンテーションの内容に活かされることも期待している。自分を豊かに表現するためにも、日ごろから様々なことに関心を持ち、幅広い視野や教養を身に付ける努力をしてほしい。

○授業に準備するもの

ノート (配布するバインダー)、英和・和英辞典

コミュニケーション英語Ⅱ

学習目標

「コミュニケーション英語Ⅰ」に続く科目として、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を統合的に培い、英語でのコミュニケーション能力の伸長を図る。精読や速読など目的に応じた読解方法を身に付け、まとまりのある文章を書いたり話したりすることにより、大学受験に必要とされる英語力を育成するだけでなく、将来、社会に出てからも役立つ実践的な英語力を育成することを目標とする。

コミュニケーション英語Ⅱ年間授業計画

科目	コミュニケーション英語Ⅱ	履修	共通	学年	2	単位	4
講座名	コミュニケーション英語Ⅱ (4単位)	担当	関口 美佐緒 他				
学習の目標	「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を総合的に育成し、生徒のコミュニケーション能力を伸ばし、大学受験に必要とされる英語力だけでなく、社会に出てからも役立つ実践的な英語力を育成することを目標とする。						
		学習の単元	学習の内容				
		月	読解			多読	
一学期	4	Lesson1 Around the World on a Bike	<ul style="list-style-type: none"> 劇作家・平田オリザが、16歳のときに決意したアメリカ・ヨーロッパへの自転車一人旅を通して、その後の人生に与えた影響について考える。 史上最強の棋士といわれる羽生善治の勝負観から、さらには人生哲学に触れる。 世の中には、過去における当時の技術では考えられない「不思議な人工物」がある。その存在について知る。 「国境なき医師団」に参加した貫戸朋子医師の活動を通じて、国際協力について考える。 決められたスケジュールに従って単語テストを実施し語彙力の増強を図る。 			<ul style="list-style-type: none"> 800語以上の本を辞書を使わずに読む 年間で20,000語以上を目標とする 	
	5	Lesson2 Into Unknown Territory					
	6	Lesson3 OOPARTS					
時間	7	Lesson4 Crossing the Border Welcome to Tokyo Traditions and Culture Nature and Environment					
48							
二学期	9	Lesson5 Saving Cherokee	<ul style="list-style-type: none"> 18c～19c、アメリカ南東部に居住するチェロキーの母語を守る闘いを通して、民族にとって母語を失わないことの意味を考える。 興福寺・阿修羅像の魅力を探るとともに、奈良時代の東洋と西洋の交流について知る。 新素材・新技術を動植物から学ぶ「バイオミミクリー」を通して、自然との共生について考える。 世界では多くの人々が地雷の犠牲になっている。ロボットによる地雷除去活動を通じて、平和の大切さ、世界へ貢献することの重要性を学ぶ。 決められたスケジュールに従って単語テストを実施し語彙力の増強を図る。 				
	10	Lesson6 Ashura—A Statue with Three Faces—					
	11	Lesson7 Why Biomimicry?					
時間	12	Lesson8 Working against the Clock Welcome to Tokyo Nature and Environment Science and Technology					
56							
三学期	1	Lesson9 The Long Voyage Home	<ul style="list-style-type: none"> 「はやぶさ」の苦難の帰還をたどりながら、困難に屈さず前進することの大切さを学ぶ。 家族愛のこもった絵手紙に触れ、メールにはない手紙の良さについて考える。 決められたスケジュールに従って単語テストを実施し語彙力の増強を図る。 				
	2	Lesson10 Grandfather's Letters Welcome to Tokyo					
	3	History of Tokyo Tradition and Culture					
時間	36						
36							
評価の方法	定期考査、小テスト、授業態度・意欲、課題の提出状況などを総合的に判断して評価する。						
講習	長期休業中に必要に応じて補習・講習を行う。						

コミュニケーション英語Ⅱの学び方

○読解力の育成

教科書：CROWN English Communication Ⅱ（三省堂）
副教材：CROWN English Communication Ⅱ 予習サブノート（三省堂）
CROWN English Communication Ⅱ Workbook Advanced（三省堂）
CROWN English Communication Ⅱ リスニング CD（三省堂）

日常生活・学校生活、ネット情報社会、言語・民族、比較文化、平和や地球環境、国際協力、科学技術や冒険、社会貢献、伝統文化、歴史、人間としての生き方などの様々な内容の英文を読むことで、それぞれの分野の背景知識の基礎を培い、今後触れるであろう大学入試問題に対応できる基礎力を養う。また、音読活動を多く取り入れることで、英文の直読直解力を養い、様々な表現を身につける。

○読解力の育成

副教材：WIDE ANGLE 5 訂版 book3（美誠社）、Cutting Edge Green（エミル出版）
英文速読 10 分テスト Rapid ReadingLevel12（美誠社）

200～300 語程度のまとまった英文を読み共通テストで要求される速読力を養う。また多様な話題に触れることで、読解に必要な基礎知識を培う。

☆多読用書籍を活用した多読活動

1 年生に引き続き、2 年生で多読活動をする。多読の 3 大原則である「辞書を使わずに読む・わからないところは飛ばす！考えない！・つまらなかつたらやめる」に則ることで、英文の直読直解力を養う。様々な分野の洋書があるので、漫画や絵本だけでなく、自然科学分野などの本にも是非触れてほしい。

また長期休業中に課題図書で異文化理解を深め古典作品に触れる機会を設ける。2 年生では累計約 20,000 語を読破することを目標とする。

副教材：Welcome to Tokyo（東京都教育委員会）

自国の文化のみならず、居住地である東京の伝統文化・歴史・特徴などについて英語で発信できる力を養う。

○語彙

副教材：英単語ターゲット 1200、英単語ターゲット 1900（旺文社）

1 年生に使用した英単語ターゲットを繰り返し扱い、語彙力や熟語の知識の伸長を図る。アプリ等を利用し、単語帳を見ながら、聴き・発音し・スペルを書くことで単語を覚える習慣をつけることが望ましい。反復練習を毎日欠かさず行うことが重要である。週 1 回の単語テストを実施することで、語彙の定着を図る。

英語表現Ⅱ（2学年）

学習目標

1年生で履修した「英語表現Ⅰ」に続く科目として、語彙や文法の力をさらに高め、場面に応じて適切に書いたり話したりする力をつけると同時に、まとまりのある正確な文章を書いたり、発話することができるようになることを目指す。スピーチ、プレゼンテーション、ディベートなどにおいてもさらに高度な活動を行う。将来、社会に出てからも役立つような実践的な力を身に付けることを目標とする。

2学年英語表現Ⅱ年間授業計画

科目	英語表現Ⅱ	履修	共通	学年	2	単位	3単位
講座名	英語表現Ⅱ	担当	関口 美佐緒 他				
学習の目標	語彙や文法の力を高め、場面に応じて適切に書いたり話したりする力を養う。大学受験に必要なとされる英語力だけでなく、社会に出てからも役立つような実践的な力をつけること目標とする。						
学習の単元		学習の内容					
月			α (2単位分)		β (1単位分)		
一学期	4	・Vision Quest English Expression II Ace Part 1 Lesson 1 ~3	主語の決定/主語になる名詞句/自動詞と他動詞 SVO/SV00/SVC/SVOC/使役動詞 話法/ 時制 プレゼンテーションとディベートについて具体的に学習する。	Trains and Subway Systems Etiquette in Japan	・ALTとのチームティーチングにより、プレゼンテーション、ディベート等をおこない、基礎的なコミュニケーション能力を育成する。 ・修学旅行に向けた表現活動を行う。		
	5	Part 1 Lesson 4 ~6					
	6	Part 1 Lesson 7 ~9					
	7	Part 3 Lesson 1 ~3(β)					
		Welcome to Tokyo					
時間							
	36						
二学期	9	・Vision Quest English Expression II Ace Part 1 Lesson 10~12	能動態と受動態/仮定法/助動詞 受動態、不定詞、動名詞 分詞、関係詞、比較 プレゼンテーションとディベートについて具体的に学習する。	Small Factories Eco-friendly Living	・ALTとのチームティーチングにより、プレゼンテーション、ディベート等をおこない、応用的なコミュニケーション能力を育成する。 ・学校行事での出来事について発表を行う。		
	10	Part 1 Lesson 13~15					
	11	Part 1 Lesson 16~18					
	12	Part 3 Lesson 1~3(β)					
		Welcome to Tokyo					
時間							
	42						
三学期	1	・Vision Quest English Expression II Ace Part 1 Lesson 19~20	最上級/否定 文章を組み立てる プレゼンテーションとディベートについて具体的に学習する。	Greener Tokyo Preparing for Earthquakes	・ALTとのチームティーチングにより、プレゼンテーション、ディベート等をおこない、発展的なコミュニケーション能力を育成する。		
	2	Part 2 Lesson 1 ~ 7					
	3	Part 3 Lesson 1 ~ 3(β)					
		Welcome to Tokyo					
	時間						
	27						
評価の方法	定期考査、小テスト、授業態度・意欲、課題の提出状況などを総合的に判断して評価する。						
講習	長期休業中に必要に応じて補習・講習を行う。						

英語表現Ⅱの学び方

■文法表現Ⅱ(α) 2単位 習熟度別授業

○文法力・語彙力・表現力(作文力)の育成

教科書: Vision Quest English ExpressionⅡ Ace (啓林館)
副教材: Vision Quest English ExpressionⅡ Ace WORKBOOK (啓林館)
Vision Quest Ultimate (啓林館)
英文法・語法 Vintage (いいずな書店)
Listening Essentials 2 (啓隆社)

1年生の時に基礎的な文法の力を身につけてきたが、英文法は繰り返し学ぶことが肝要なので、2年次では文法項目全般の総復習をおこなう。Ultimateを軸に、文法の基礎固めを徹底する。ここで学習する基本的な文法の力は、英語の4技能を高める上で基礎となる大切な力であり、大学受験に際しても最も必要とされる。品詞の語法や入試問題も含めた幅広い事項に対応できるようにしたい。

Vision Quest English ExpressionⅡ Aceの教科書は、基本的な文法事項や構文を取り扱いながら、英文のトピックを意識して、英文を作る力を養うためのものである。英文を作る際にカギとなる文法事項を取り扱い、また実践的な場面で英文を使うテクニックも扱われている。パラグラフの知識、そしてプレゼンテーションやディスカッションのテクニックについても取り上げられており、基本的な文法力を元にして英語を使いこなすための力を養うことができる。

Vision Quest Ultimateは文法について系統的にまとめられた参考書であり、文法事項の総まとめとして使用すると共に、わからない文法事項を辞書のように引いて確認するために使うこともできる。面倒くさがらずに、ひとつひとつ地道に文法事項を確認することが、英語力育成には不可欠である。

■文法表現Ⅱ(β) 1単位 ALTとのチームティーチング

○コミュニケーション能力の育成

教科書: Vision Quest English ExpressionⅡ Ace (啓林館)
副教材: Welcome to Tokyo Intermediate(東京都教育委員会)
SDG s 英語長文 Core (三省堂)
ゲートウェイ英作文 (文英堂)

1年生の時に、ALTとのチームティーチングにより、プレゼンテーション、ディスカッション活動などを行い、実践的なコミュニケーション能力の基礎を身に付けてきた。2年生でも、引き続き、コミュニケーション活動をおこなっていく。ただし2年次は習熟度別ではなくクラス単位で行う。

コミュニケーション英語Ⅱや英語表現Ⅱ(α)で身に付けた語彙力や表現力を使ってALTとコミュニケーションをとりながら大学入試に対応する力をつけると共に、社会に出てからも役立つような実践的コミュニケーション能力を身に付ける。

コミュニケーション英語Ⅲ

学習目標

英語の四技能の習得、向上を目指し、「読む」「聞く」に終始することなく、「書く」「話す」といったアウトプットの活動を通して、総合的な英語力を高める。

3学年コミュニケーション英語Ⅲ年間授業計画

科目	コミュニケーション英語Ⅲ	履修	共通	学年	3	単位	4単位
講座名	コミュニケーション英語Ⅲ	担当	平野靖子・最上谷明信 他				
学習の目標	英語の4技能の習得、向上を目指し、「読む」「聞く」に終始することなく、「書く」「話す」といったアウトプットの活動を通して、総合的な英語力を高める。						
	月	学習の単元	学習の内容				
一学期	4	[Skillful] Lesson 1 Errors in Geography Lesson 2 Slow Food for a Fast World Lesson 3 What Happened When She Was Stolen?	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグラフとトピックセンテンス ・文章の構成 ・時間順序の展開パターン 				
	5	Lesson 4 The Diversity of Lying	<ul style="list-style-type: none"> ・例示・例挙の展開パターン 				
	6	[Cutting Edge] Chapter 1～8	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解及び異文化比較について ・小説・娯楽などの物語について 				
時間	7	[Welcome to Tokyo]	<ul style="list-style-type: none"> ・時事・社会・医療・健康・福祉などの話題について ・言語・コミュニケーション・ボディランゲージの話題について 				
	48						
二学期	9	[Skillful] Lesson 5 Organizing to Protect the Environment Lesson 6 Long live Women! Lesson 7 What a Successful Reader Needs	<ul style="list-style-type: none"> ・対比の展開パターン ・原因・結果の展開パターン ・ディスコーススキルの活用① 長文テーマ：言語・教育 				
	11	Lesson 8 No Greater Love	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスコーススキルの活用② 長文テーマ：友情・愛 				
時間	12	[Cutting Edge] Chapter 9～18 [Welcome to Tokyo]	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・人生・思想・宗教などの話題について ・歴史・文明・科学などの話題について ・科学・生物・動植物などの話題について 				
	56						
三学期	1	センター入試対策演習	過去問及び予想問題を用いての演習				
	2	個別指導	記述式試験対策				
時間	3	個別指導					
評価の方法	定期考査、小テスト、授業態度・意欲、課題の提出状況などを総合的に判断して評価する。						
講習	必要に応じて補習・講習を行う。						

コミュニケーション英語Ⅲの学び方

○教科書を出発点とした4技能の育成

教科書：SKILLFUL English Communication Ⅲ（啓林館）

副教材：SKILLFUL English Communication Ⅲ 生徒用CD（啓林館）

English Communication Ⅲの授業は、大学入試や四技能試験に役立つような英語の四技能を授業を通して総合的にバランスよく向上させることに主眼を置いている。アクティブラーニングを通して生徒の主体的なコミュニケーション能力を引き出し、英語のインプット及びアウトプットをバランスよくおこなっていく。

○精読を中心とした読解力の育成

副教材：Cutting Edge（エミール出版）

入試に出題される様々なテーマの長文を精読しながら、入試突破のために必要な単語・熟語・文法、語法などの力を養っていく。

○多読・速読を通じた読解力の育成

副教材：共通テストドリル 英語 リーディング 10 minutes [Z会]

共通テスト対策として、多読・速読の訓練を行う。

○ALT とのティームティーチングによる英語四技能の育成

コミュニケーションⅢの授業では、随時 ALT とのティームティーチングも行い、その中で英語でのアクティビティを通じて、英語の四技能の育成をはかっている。

○語彙力の育成

副教材：システム英単語（駿台文庫）

語彙力は、実践的な長文読解や英作文を進めていく中でも、引き続き並行して身に付けていかなければならない力である。機械的に暗記するのではなく、ジャンルや使用場面などによって分類しながら身に付けていくことで、より深い理解を伴った語彙力を習得することができる。上記教材は2年で使用したものであるが、より確実な知識として使えるようになるまで引き続き使用する。

○英語4技能外部検定試験

高大接続改革により、大学入試で四技能試験が今まで以上に利用される状況がある。授業では英語の四技能外部試験に対応できるように、四技能をバランスよく伸ばす授業を1年次から実施している。四技能試験を積極的に受験して、大学入試に適切に対応できるように準備をしてほしい。

英語表現Ⅱ（3学年）

学習目標

英語の4技能の習得、向上を目指し、「読む」「聞く」に終始することなく、「書く」「話す」といったアウトプットの活動を通して、総合的な英語力を高める。

3学年英語表現Ⅱ年間授業計画

科目	英語表現Ⅱ	履修	共通	学年	3	単位	2単位
講座名	英語表現Ⅱ	担当	平野靖子・最上谷明信 他				
学習の目標	英語の4技能の習得、向上を目指し、「読む」「聞く」に終始することなく、「書く」「話す」といったアウトプットの活動を通して、総合的な英語力を高める。						
	月	学習の単元	学習の内容				
一学期	4	[Vision Quest Ⅱ(啓林館)] Part 1 Lesson 11～15	[Vision Quest Ⅱ(啓林館)] 助動詞・数量・修飾語句・関係代名詞・関係副詞				
	5	[英作文Write to the Point (数研出版)] Lesson 1～8	[英作文Write to the Point (数研出版)] 基本的な構文を使った英作文				
	6	[CLOVER 英文法・語法 入試発展 (数研出版)] Lesson 1～6	[CLOVER 英文法・語法 入試発展 (数研出版)] 入試に対応した文法・語法の発展問題				
時間	7	[共通テスト [®] リル 英語リスニング [®] 10 min. (Z会出版)] Lesson 14～19	[共通テスト [®] リル 英語リスニング [®] 10 min. (Z会出版)] 短い対話の聞き取り・複数の説明の聞き取り				
	24						
二学期	9	[Vision Quest Ⅱ(啓林館)] Part 1 Lesson 16～20	[Vision Quest Ⅱ(啓林館)] 副詞・比較・否定など				
	10	[英作文Write to the Point (数研出版)] Lesson 9～16	[英作文Write to the Point (数研出版)] 応用的な構文を使った英作文				
		[CLOVER 英文法・語法 入試発展 (数研出版)] Lesson 7～14	[CLOVER 英文法・語法 入試発展 (数研出版)] 入試に対応した文法・語法の発展問題				
時間	11	[共通テスト [®] リル 英語リスニング [®] 10 min. (Z会出版)]	[共通テスト [®] リル 英語リスニング [®] 10 min. (Z会出版)]				
	26	Lesson 20～25	講義の聞き取り				
三学期	1	共通テスト対策演習	過去問及び予想問題を用いての演習 過去問及び予想問題を使って入試の直前対策を実施する。				
	2	個別指導	記述式試験対策 各大学の記述式試験に対応した指導を実施する。				
	3	個別指導					
時間							
評価の方法	定期考査、小テスト、授業態度・意欲、課題の提出状況などを総合的に判断して評価する。						
講習	必要に応じて補習・講習を行う。						

英語表現Ⅱ（3年生）の学び方

■習熟度別授業

○作文力の育成

教科書：Vision Quest English ExpressionⅡ（啓林館）

副教材：入試必携 英作文 Write to the Point（数研出版）

CLOVER 英文法・語法ランダム演習 入試発展 数研出版

1、2学年で学んできた文法項目を踏まえ、大学入試に対応した問題演習に取り組んでいく。今までに学んできた単語・熟語、文法を基礎にして、大学入試で実際に出題される形式の問題を解きながら、実践的な作文力を養っていく。

和文英訳の入試問題では、そのままでは英語にするのが難しいような出題がされることがあるが、そこで必要とされているのは、難しい単語や構文を使って英文を完成させる力ではなく、どのようにしてわかりやすい英文で書くかという書き換え能力である。単語・熟語・文法の力をつけるのはもちろんのこと、授業を通してこのような英作文のセンスを磨くことが大切である。

英作文で大切なのは、いかに減点されない答案を作るか、ということである。名詞は単数か複数か。冠詞の使い分けは適切か。動詞の時制は、現在、過去、未来、完了、仮定法などどの形を使うのが適切か。簡潔な表現で文法ミスによる減点をなくすことで、合格する答案に近づいていく。

○リスニング力の育成

副教材：共通テストドリル 英語リスニング 10 min.（Z会出版）

3学年では、共通テスト対策に対応したリスニング問題のトレーニングを行う。共通テストリスニングは、30分間、休みなしに音声を聞かなければならないが、30分間、集中して音声を聞き続けることは、想像以上に大変な作業であるので、日頃から英語の音に慣れておくことが大切である。

英語が聞き取れないのは、流れてくる英語のスピードに自分の頭の処理能力が追いつかないということである。そこで、リスニング音声に慣れ、処理スピードをつける練習として、共通テスト試験のリスニングに特化した問題集を使ってトレーニングを行っていく。

○文法・語法力の育成

副教材：Ultimate 総合英語（啓林館）、Next Stage（桐原書店）

入試対策の勉強をする時には、応用・難解問題に目がいきがちだが、基礎問題で抜けているところがないようにすることが合否のカギになる。その意味で、抜けている文法事項が無いように基礎を徹底することが大切である。1、2年生で学習した文法テキストの復習をしっかりとしておくこと。仮定法や比較は入試の頻出事項なので、確実に理解しておきたい。

応用力を養成するためには、『Ultimate』およびNextstageの関連問題集を最低でも3周以上、自分で復習しておきたい。模擬試験や過去問でわからない文法事項は必ず確認して、文法知識を確実なものにしておくことが必要である。

家庭科

家庭科学学習指導計画

教科の学習目標

家庭科の学習目標は、豊かで幸せな人生を送るために「日常生活に必要な知識や技術を身につける」と共に「社会の状況を的確に判断し、自ら考え選択できる力を備える」ことにあります。そのためには、男女が互いを尊重し協力していく姿勢が欠かせません。生涯に渡って人生の様々な場面で、悔いのない判断をする力、自分だけでなく周りの人々も尊重できる態度を身につけて欲しいと考えています。

本校の家庭科は、学習指導要領に明記された12領域を全て学びます。領域を選択して学習する学校が多い中で、幅広い内容を学習する皆さんにとっては大変な事かも知れませんが、しかし皆さんは、社会に出て様々な分野で活躍する可能性を持っています。将来どの分野に進んだとしても「知らない」事がないようきちんと考え判断できる力を備えて欲しいと思います。

家庭科は、生活に関わる基礎的・基本的な知識と技術の習得はもちろんですが、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する力、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる教科です。家庭を切り口に社会全体を見据え、諸外国や未来にも目を転じてください。大学受験には必要な教科ではないかも知れませんが、しかし、真剣に家庭科を学んだ生徒は、必ず家庭科の意義がわかるはずですよ。

講座名	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
家庭基礎	1	必修	2	家庭基礎 気づく力、築く未来（実教出版）	2022 生活学N a v i 資料+成分表
家庭基礎	2	必修	2	新家庭基礎 パートナーシップでつくる未来（実教出版）	2022 生活学N a v i 資料+成分表

家庭基礎を学ぶにあたって

○学習の留意点

家庭科は非常に身近な教科です。社会で起きている出来事に関心を持ち、新聞やメディア媒体を通し、様々な領域のニュースに触れるよう心がけましょう。驚くほど家庭科に関する内容が多いことに気が付くと思います。それは生活に密着した教科ならではの、家庭科を学ぶことの意義です。

そしてこの蓄積が「教養」となり「豊かな人生を歩む土台」となります。けれども「土台」を作っても、活用しなければ意味がありません。土台の上に自らの手で教養を築いてください。その方策のひとつとして、本校では学校家庭クラブとホームプロジェクトの活動を行っています。学校家庭クラブとは、家庭科で学んだ知識や技術を生かして、地域社会にある課題に学校単位で取り組む実践活動です。またホームプロジェクトは、家庭生活から身近な課題を発見し（See）、解決、改善のために解決方法を考え計画を立て（Plan）、実践し（Do）、反省・評価（See）するという実践活動です。本校では、とくにホームプロジェクトに対する取り組みには伝統と実績があり、家庭科履修生全員が夏休みに取り組んでいます。その成果を発表すると共に、優秀な作品は全国コンクールに応募しています。

日ごろから家庭内や自己の問題を発見し解決できるよう行動し、授業内容の理解を深めましょう。

また家庭科の授業は週に1度、2時間続けての授業になります。体調管理を行い欠席のないよう心がけましょう。

○授業の受け方

1クラスを出席番号前半クラスと後半クラスに分け、2グループでの展開授業になります。約20名の少人数クラスになり、学習内容によって担当教員が変わります。学習範囲も広く授業のテンポも速いため、中学校の家庭科とは大きく様子が違い、初めは戸惑うかもしれません。また、夏休みにはホームプロジェクトの課題があります。授業やホームプロジェクトを円滑に進めるためにも、日頃から12領域に興味関心を持ち、そのニュースに対し積極的に自分の意見や考えを述べられるよう心がけましょう。

授業内では、教科書、資料集の他に、教員作成のプリントが配布されます。家庭科用ファイルを用意しましょう。授業内に、プリントに書いてある内容に関して様々な補足説明が行われます。プリント内などにメモを取り、復習しやすいプリント作成を心がけてください。

実習では、時に上手くない時もあるでしょう。しかし一生懸命取り組むことが重要です。個々の技能には差があると思いますが、どれだけ「できるようになった」か、「目標を達成できた」かに力点を置きましょう。到達度を尊重します。実習

は、知識や知恵、技術や経験の定着が目的であり、初めから全て完璧に出来る必要はありません。出来ないからこそ家庭科で学ぶのです。そして最後までやり遂げること。本校では作品は最後まで仕上げて提出することを義務づけています。授業を欠席することも予定時間内に完成しないこともあるかも知れません。そんなときは自ら補って最後までやり遂げてください。未提出は論外です。わからない点は積極的に教員に聞き、自らの力にしていきましょう。

年間授業計画

科目	家庭基礎		履修	必修	学年	1	単位	2単位
講座名			担当	未定				
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度】			
目標	人の一生を生涯発達の視点で捉え、家族・家庭の意義、家族家庭と社会の関わり方について理解する。生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得する。		現状の生活課題などを自ら発見し解決する方法を考え、家庭生活の充実向上を図る力を身につける。		家族・家庭と社会の関わりを理解して、日常の中で生活を改善しようとする態度を身につける。			
評価規準	生きていく上で必要な「生活」にかかわる基本的な知識を身につけ、理解している。 自立するために必要な調理技術、縫製技術、また家族介護のための基礎的技術などを身につけることができる。		学習した内容を理解した上で自分の生活課題や社会的な課題を見つけ、解決のためにどのような事ができるのかを思考し、判断した内容をレポートや発表を通して表現することができる。		自分の生活課題や社会的な課題にアプローチし、解決のために具体的に行動し、改善に努めている。			
評価方法	定期考査 レポートおよびワークシートの記録 提出作品の内容 学習活動の様子		提出作品の内容 ワークシートの記録状況 レポートの内容 発表の様子、発表内容 学習活動の様子		学習活動への参加状況や様子 課題の提出状況 振り返りシートの提出 学習活動の様子			
月	学習の単元		学習の内容					
一学期	4	子どもとかかわる	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の心身の発達や親の役割、子どもの育つ環境について理解し、子どもを産み育てることの意義を考える。 ・子どもの健やかな発達のために、親や家族および地域社会の果たす役割を知る ・栄養素の基礎と健康や環境に配慮した食生活について理解し、食生活の管理・計画に必要な知識と調理の技能を身につける。 ・食品の安全や食文化の継承について考えると共に健康で豊かな食生活を営む力を身につける。 ・自己の家庭生活の中から生活上の課題を見つけ、解決方法を考え、計画を立てて実践することを通して、生活を科学的に探究する方法や問題解決の能力を身につける。 ・生活者として積極的に生きる力をつける。 					
	5 6 7	食生活を作る						
時間	夏	ホームプロジェクト						
24	休み							
二学期	9	衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な被服材料の基礎的な知識を身につけると共に、目的に応じた被服を選択・管理し健康で快適な衣生活を営むことができるようにする。 ・布および被服材料を用いた実施を通してものを作る喜びを知る。 ・ライフステージに応じた適切な住居の計画・管理ができるようになると共に、防災や環境に配慮し社会全体として住環境を考える力を養う。 ・高齢者の心身の変化を踏まえた自立生活について考え、高齢者を取り巻く社会福祉の現状について考察する。 					
	10 11 12	住生活をつくる						
時間	28	高齢者とかかわる						
三学期	1	これからの人生について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の家族の抱える様々な問題点を理解し、原因と解決方法を考える。家庭生活と社会の関わりや未来について考え、自己の人生を見つめ、人生のプランについて考える力を養う。 ・消費者の権利と責任を理解し、消費生活の現状と課題、意思決定や契約の重要性、消費者保護のしくみについて理解する。 ・貯蓄・負債・保険・金融商品について学び将来の家計管理について理解する。 					
	2 3	自分らしい生き方と生活 消費行動を考える						
時間	18	経済的に自立する						
講習	必要に応じて補講を行う。							

年間授業計画

科目	家庭基礎		履修	必修		学年	2	単位	2単位
講座名			担当	未定					
	【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度】			
目標	人の一生を生涯発達の視点で捉え、家族・家庭の意義、家族家庭と社会の関わり方について理解する。生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得する。		現状の生活課題などを自ら発見し解決する方法を考え、家庭生活の充実向上を図る力を身につける。			家族・家庭と社会の関わりを理解して、日常の中で生活を改善しようとする態度を身につける。			
評価規準	生きていく上で必要な「生活」にかかわる基本的な知識を身につけ、理解している。 自立するために必要な調理技術、縫製技術、また家族介護のための基礎的技術などを身につけることができる。		学習した内容を理解した上で自分の生活課題や社会的な課題を見つけ、解決のためにどのような事ができるのかを思考し、判断した内容をレポートや発表を通して表現することができる。			自分の生活課題や社会的な課題にアプローチし、解決のために具体的に行動し、改善に努めている。			
評価方法	定期考査 レポートおよびワークシートの記録 提出作品の内容 学習活動の様子		提出作品の内容 ワークシートの記録状況 レポートの内容 発表の様子、発表内容 学習活動の様子			学習活動への参加状況や様子 課題の提出状況 振り返りシートの提出 学習活動の様子			
月	学習の単元		学習の内容						
一 学 期	4 5 6 7	衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な被服材料の基礎的な知識を身につけると共に、目的に応じた被服を選択・管理し健康で快適な衣生活を営むことができるようにする。 布および被服材料を用いた実施を通してものを作る喜びを知る。 ライフステージに応じた適切な住居の計画・管理ができるようになると共に、防災や環境に配慮し社会全体として住環境を考える力を養う。 高齢者の心身の変化を踏まえた自立生活について考え、高齢者を取り巻く社会福祉の現状について考察する。 自己の家庭生活の中から生活上の課題を見つけ、解決方法を考え、計画を立てて実践することを通して、生活を科学的に探究する方法や問題解決の能力を身につける。 生活者として積極的に生きる力をつける。 						
		住生活をつくる							
時 間	24	夏休み							
		ホームプロジェクト							
二 学 期	9 10 11 12	子どもとかかわる	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の心身の発達や親の役割、子どもの育つ環境について理解し、子どもを産み育てることの意義を考える。 子どもの健やかな発達のために、親や家族および地域社会の果たす役割を知る。 栄養素の基礎と健康や環境に配慮した食生活について理解し、食生活の管理・計画に必要な知識と調理の技能を身につける。 食品の安全や食文化の継承について考えると共に健康で豊かな食生活を営む力を身につける。 						
		食生活をつくる							
三 学 期	1 2 3	これからの人生について考える 自分らしい生き方と生活	<ul style="list-style-type: none"> 現代の家族の抱える様々な問題点を理解し、原因と解決方法を考える。家族生活と社会の関わりや未来について考え、自己の人生を見つめ、人生のプランについて考える力を養う。 消費者の権利と責任を理解し、消費生活の現状と課題、意思決定や契約の重要性、消費者保護のしくみについて理解する。 貯蓄・負債・保険・金融商品について学び将来の家計管理について理解する。 						
		消費行動を考える							
時 間	18	経済的に自立する							
講習	必要に応じて補講を行う。								

情報科

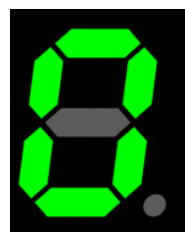
情報科学学習指導計画

教科の学習目標

情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、必要な情報リテラシーの習得、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。

講座名	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
社会と情報	3	共通	2	高校社会と情報（実教）	インターネット社会を生きるための 情報倫理改訂版（実教）



「社会と情報」の構成

○情報社会

情報と情報社会、社会の変化と個人の責任、情報社会の問題、メディアとその特徴、メディアと広告
メディアの選択、個人情報とその保護、コンピュータの発達と構成

○コミュニケーション

コミュニケーション、メールの利用、ネットワーク、共通の取り決め、インターネットの仕組み、
Web ページの閲覧とメールの仕組み、インターネットのサービス、社会の中の情報システム
合意形成、クラウドコンピューティング、人に優しい情報技術

○情報安全

個人による安全対策、組織による安全対策、安全のための情報技術、暗号化とその仕組み、
法規による安全対策、知的財産権の概要と産業財産権、著作権、著作権の利用

○デジタル化

デジタル情報の特徴、静止画像の扱い、数値や文字の表し方、音声のデジタル化、
動画と立体表現、圧縮の仕組み、さまざまな計算

○問題解決

問題を解決するには、情報の収集、検索と論理演算、情報の整理と管理、分析のための工夫
関数と統計、表とグラフの活用、分析の実際、問題解決の実際、論理的な文章構成
表現の工夫、プレゼンテーションの方法、Web ページによる情報発信



社会と情報

学習目標

情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解する。
 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して、情報を収集、処理、表現できるようにする。
 効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。

社会と情報年間授業計画

科目	社会と情報	履修	共通	学年	3	単位	2単位
講座名	社会と情報	担当	小泉佳弘				
学習の目標	情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。						
月	学習の単元	学習の内容					
一学期 時間	4 オリエンテーション 情報社会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会がもたらした生活やビジネスの変化 ・コンピュータを利用した犯罪と、被害者にならないための心構えや健康への影響や情報格差への対応 ・個人情報とその保護や個人情報の流出の実態とその防止方法 ・コンピュータと周辺装置の構成、ソフトウェア ・電子メールにおける表現方法とその仕組み ・ネットワークの構成 ・パスワード、コンピュータウイルスとウイルス対策ソフト、不正アクセスとファイアウォール ・セキュリティポリシーやアクセス制御、フィルタリング、電子透かし ・共通鍵暗号や公開鍵暗号、SSL、電子署名の仕組み ・個人情報の保護に関する法律や情報公開 ・知的財産権の種類、産業財産権 					
	5 コミュニケーション						
	6 7 情報安全と情報モラル						
24							
二学期 時間	9 デジタル化	<ul style="list-style-type: none"> ・アナログとデジタルの意味、情報量の単位 ・2進数、10進数、16進数 ・文字コード ・音声、画像のデジタル化 ・圧縮の仕組み ・音声や画像のデータ量、プリンタの解像度、通信速度等の計算問題 					
	10 総合演習						
	11 12						
28		<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なプログラム学習 					
三学期 時間	1 特別時間割	<ul style="list-style-type: none"> ・教科「情報」で学んだことに関し、興味を持ったテーマを設定し、研究・発表する 					
	2						
	3						
評価の方法	定期考査、授業課題の提出状況、授業の出席状況、取り組みの様子など総合的に評価する。						
講習	特に予定はなし。						

「社会と情報」の学び方

○「理論」分野の学習

「情報」というと“パソコン実習”というイメージがあるが、それは小学校ではコンピュータに触れることでコンピュータの楽しさや使えることをめざし、実習が中心に授業が進められる。中学校では、「技術・家庭」の情報分野において小学校で習得した技能をもとに少しずつコンピュータ理論についての学習が進められている。

高等学校での共通教科「情報」は、「社会と情報」と「情報の科学」の2科目のうち1科目を履修するが、本校では、「社会と情報」を取り扱うこととし、小学校、中学校で学んだ技能、基礎的な理論をもとに、さらに理論的な分野について深く追及し、さらに実務演習を行っていく。

学習方法としては、「復習」を中心に学習を進めていけば、すべての生徒が同じスタートの位置に立って学習する教科なので、授業をよく聞いていけば十分についていけると考える。日頃の授業のノートづくりをしっかりと行う必要がある。

「理論」分野においては以下のような項目について理解を深めていく。

情報化の進展により社会が発展し、生活が便利になる一方で、さまざまな問題も生じてきている。情報化が社会に及ぼす影響や課題について理解を進めていく。

サイバー犯罪などの被害を避け、コンピュータやインターネットを安全に活用するために、セキュリティを確保するためのさまざまな方法を理解していく。

多くの情報が公開され、流通していく中、情報を保護することの必要性とそのため法律や個人の責任について理解していく。

情報は、いろいろな方法で表現されるが、アナログ情報とデジタル情報の2つに分類することができる。アナログとデジタルの違いと、特徴を理解していく。特に、2進数、16進数、10進数の特徴について触れる。

情報を処理する上で基礎となるコンピュータの基本的な仕組みについて学ぶ。また、コンピュータにつながっているさまざまな装置の働きについても理解する。

文字、数値、音声、画像、動画などの情報がデジタル情報としてどのようにしてあらわされるかを理解する。また、圧縮する仕組みと意義についても理解していく。

インターネットには、さまざまなサービスがある。インターネットの特性を理解し、それぞれのサービスを活用する上での注意点を理解する。

情報発信の注意点や情報の活用方法を理解する。

○「技能」分野の学習

コンピュータを使った効果的な情報の表現について理解していく。

「技能」分野においては以下のような項目について理解を深めていく。

身の回りにはさまざまな問題があるが、すぐには解決ができないものも多いが、コンピュータを使うと即座に解決することができる場面がある。問題を解決するための手順や方法を理解し、技能の習得に結び付けていく。

プレゼンテーションにおいては、コンピュータを使った基本的リテラシーの習得を、例題を使いながら実習を進め、総合演習時における発表ができるような技能を習得する。

調査・分析においては、表計算ソフトの基本的なリテラシーの習得を行い、分析を行う際における重要点を理解し、数値的な分析力を身に付ける。

科目名 情報 I
 年間授業計画

科目	情報 I	履修	必修	学年	1	単位	2 単位
講座名	情報 I	担当	小泉佳弘				
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】				
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを構成する装置や主な機能を理解する。 ・情報に関する権利と法を理解する。 ・プログラムとアルゴリズム、それを表現する方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決に向けて目的や方法を意識しながら計画を立てられるようになる。 ・収集した情報を適切に整理・加工ができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義や実習の内容を振り返り、適切に改善できるようになる。 ・情報社会のルールやマナーを守り、これからの社会の課題に対して、情報技術を活用しながら積極的に関わろうとする態度を養う。 				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物の内容 ・学習内容の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物の内容 ・実習、発表等内容 ・学習活動の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況や様子 				
月	学習の単元		学習の内容				
一学期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器を使うために必要なこと ・情報の伝達 ・コミュニケーションに必要なこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会のルールやマナーについて理解する。 ・情報の伝達、情報とデータについて理解する。 ・コミュニケーションにおける情報の適切な利用の仕方を学習する。 ・情報通信ネットワークの構成と、それぞれの機器の役割を理解する。 ・情報セキュリティに関する考え方を学習する。 ・産業財産権と著作権について理解する。 				
	5						
時間	6	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークの構成 ・情報の安全を守るしくみ ・権利と法 					
	7						
二学期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを構成する主な装置の機能 ・表計算ソフトの実習 ・コンピュータの内部処理 ・モデル化とシミュレーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハードウェア、五大機能を理解する。 ・アナログとデジタルの違いを学習する。 音のデジタル化（標本化、量子化、符号化） ・画像のデジタル化（解像度、画像の色の表現、ピクセル） ・表計算ソフトの基礎を学習する。 ・表計算ソフトを使用し、シミュレーションを行う。 				
	10						
11							
12							
三学期	1	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングをしてみよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・順次構造、分岐構造、反復構造を学習し、フローチャートで表す。 ・プログラミング言語を学習し、整列、ソート、探索について学び、プログラムを制作し、実行する。 				
	2						
3							
時間							
講習	必要に応じて補講を行う。						

「情報Ⅰ」の学び方

○「理論」分野の学習

高等学校での共通教科「情報」は、「情報Ⅰ」と「情報Ⅱ」の2科目あるが、三田高校では、全国での必修科目である「情報Ⅰ」を履修し、小学校、中学校で学んだ技能、基礎的な理論をもとに、さらに理論的な分野について深く追及し、さらに実務演習を行っていく。

学習方法としては、「復習」を中心に学習を進めていけば、すべての生徒が同じスタートの位置に立って学習する教科なので、授業をよく聞いていけば十分についていけると考える。日頃の授業のノートづくりをしっかりと行う必要がある。

「理論」分野においては以下のような項目について理解を深めていく。

情報化の進展により社会が発展し、生活が便利になる一方で、さまざまな問題も生じてきている。情報化が社会に及ぼす影響や課題について理解を進めていく。

サイバー犯罪などの被害を避け、コンピュータやインターネットを安全に活用するために、セキュリティを確保するためのさまざまな方法を理解していく。

多くの情報が公開され、流通していく中、情報を保護することの必要性とそのため法律や個人の責任について理解していく。

情報は、いろいろな方法で表現されるが、アナログ情報とデジタル情報の2つに分類することができる。アナログとデジタルの違いと、特徴を理解していく。特に、2進数、16進数、10進数の特徴について触れる。

情報を処理する上で基礎となるコンピュータの基本的な仕組みについて学ぶ。また、コンピュータにつながっているさまざまな装置の働きについても理解する。

文字、数値、音声、画像、動画などの情報がデジタル情報としてどのようにしてあらわされるかを理解する。また、圧縮する仕組みと意義についても理解していく。

インターネットには、さまざまなサービスがある。インターネットの特性を理解し、それぞれのサービスを活用する上での注意点を理解する。

情報発信の注意点や情報の活用方法を理解する。

○「技能」分野の学習

コンピュータを使った効果的な情報の表現について理解していく。

「技能」分野においては以下のような項目について理解を深めていく。

身の回りにはさまざまな問題があるが、すぐには解決ができないものも多いが、コンピュータを使うと即座に解決することができる場面がある。問題を解決するための手順や方法を理解し、技能の習得に結び付けていく。

調査・分析においては、表計算ソフトの基本的なリテラシーの習得を行い、分析を行う際における重要点を理解し、数値的な分析力を身に付ける。

3学期にプログラム言語を使い、プログラミング能力を養うためのアルゴリズムや簡単なプログラミングの実習を行う。

総合的な探究の時間

三田高校での探究学習について

I. はじめに 本校の経緯

73期生から、本校が都の指定事業である「知的探究イノベーター推進校」に指定されたことで、取り組みを整理し、1・2年の2年間のカリキュラム編成での実施が開始されました。現在で5年目を迎えています。

II. 探究学習の目的

課題研究活動や論文を創り上げることを通して、「志・教養」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を鍛え、目の前の新しい問題や課題に立ち向かっていくことのできる力（＝創造力）を培う。

III. 本校のカリキュラムと学習の位置づけ

「課題研究のイメージ図」

<1学年> 2単位

- ・クラスごとの授業で2学年での研究に向けた準備Ex)・SDGsとブレインストーミング
 - ・ジグソー法
 - ・RQ（リサーチクエスチョン）、仮説の導き方
 - ・研究手法を学ぶ など

- ・最終到達点 リサーチクエスチョン講評会
外部講師を招き、2年次での本調査に向けた準備を完成させる。

思考力・判断力・表現力等の向上

主体的に学ぶ態度の向上

進路（学問）選択

調査活動・論文執筆・発表

2学年

- ・ゼミ形式の研究指導
- ・（必要に応じて）外部機関訪問
- ・課題研究中間発表、最終発表

課題研究に必要な資質・能力を育成

1学年

- ・リサーチクエスチョン設定の考え方
- ・仮説の設定
- ・論理的思考力の育成
- ・読解力の育成

⇒次年度の研究へとつながるように「RQとはなにか？を知る事」、「探究を楽しむこと」を目的

<2学年> 1単位

- ・ゼミ形式で研究
 - ゼミでの進捗報告・質疑応答、メンター教員からの講評
 - 調査対象（生徒・企業など）へインタビュー調査、アンケート調査
- ・最終到達点 課題研究論文執筆・課題研究発表会
4000字以上の論文を作成し、プレゼンテーションする

⇒「RQが適切であるかを問い続ける事」「自分が知りたいことに近づく楽しさを味わう事」を目的

総合的な探究の時間 年間授業計画

科目	総合的な探究の時間	履修	共通	学年	1	単位	2単位
講座名	総合的な探究の時間	担当	1年生担任				
学習の目標	課題研究活動や論文を創り上げることを通して、「志・教養」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を鍛え、目の前の新しい問題や課題に立ち向かっていくことのできる力（＝創造力）を培う。						
月	学習の内容						
一学期	読書プレゼンテーション 課題研究講演会(課題研究とは何か) グローバル市民デー SDGsについて考えよう 夢ナビライブ 研究テーマ設定 課題研究講演会 研究テーマの決め方について 夢ナビ体験講義						
時間							
24							
二学期	文化祭について 評論文演習 リサーチクエスチョンを深める 2学年課題研究中間発表会の見学 研究手法を学ぶ 論文の書き方について 研究要綱の作成準備 プレゼン用ポスターの作り方 課題研究グループ分け指導						
時間							
28							
三学期	研究について 2学年課題研究発表会見学 リサーチクエスチョン講評会 課題研究とは何か？						
時間							
18							
評価の方法	課題の提出状況、発表状況、取り組みの様子などを総合的に評価する。						

総合的な探究の時間 年間授業計画

科目	総合的な探究の時間	履修	共通	学年	2	単位	1 単位
講座名	総合的な探究の時間	担当	2 年生担任他				
学習の目標	課題研究活動や論文を創り上げることを通して、「志・教養」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を鍛え、目の前の新しい問題や課題に立ち向かっていくことのできる力（＝創造力）を培う。						
月	学習の内容						
一学期	優秀者発表会の視聴 指導教員への研究内容の報告 課題研究の進捗状況の報告 キャリア学習 課題研究中間まとめ						
時間							
12							
二学期	課題研究グループ活動 課題研究中間発表会 課題研究の進捗状況の報告 課題研究グループ・個人ワーク 研究要綱・論文作成 研究要綱作成・提出						
時間							
14							
三学期	課題研究論文作成・提出 課題研究最終発表準備 課題研究発表会 課題研究のポートフォリオ作成 課題研究自己評価 課題研究のまとめ						
時間							
9							
評価の方法	課題の提出状況、発表状況、取り組みの様子などを総合的に評価する。						

林窓

発効日 令和4年4月1日

編集・発行 東京都立三田高等学校
東京都港区三田一丁目4番46号
電話 03(3453)1991

©2022 MITA HIGH SCHOOL